

工事番号														(様式－１)	
市長		副市長		部長		課長		係長		係員		検算		担当	
令和 7 年度 (交付金) 下水道施設統廃合事業 明科幹線第2－2工区管路工事 閲覧設計書															
安曇野市明科東川手ほか															
設 計 大 要								施 工 方 法				請 負			
管路施設工事 ΣL=150.0m 管 路 布 設 工 事 DIP-GXφ200mm L= 84.0m 管 路 推 進 工 事 DIP-GXφ200mm L= 66.0m 付帯工 1 式								施 工 期 間				273 日間			
								起工予定年月日				令和 年 月 日			
								竣工予定年月日				令和 年 月 日			
								契約保証方法				金銭的保証			
								・別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、L、%、日、時、工数、空m3、掛m2、日・回、日回、供用日、月」の単位により見積りのための参考数量を示したものは任意扱いです。したがって、内訳書の作成や契約を拘束するものではありません。ただし、指定した場合を除きます。							

総括情報表

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	61 市町村設計積算 0 1 実施単価 50 1 1 中信（2） 07.10.01			
	当 世 代	前 世 代		
前払率（%） 消費税率（%） 工種 施工地域区分(共通仮設) 施工地域区分(現場管理) 現場環境改善費率計上分 契約保証方法 緊急工事区分 時間的制約 豪雪割増 週休2日補正 冬期補正（現管）	40 10 % 31 下水道(2) 06 一般交通影響有り(2)-2 06 一般交通影響有り(2)-2 02 上記以外 01 金銭的保証 00 補正なし 00 時間的制約無し 02 豪雪割増無し 09 週単位（土日） 444			

(工事費内訳書)

本工事費（交付金）

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費（交付金）											
管路											
管きょ工（開削）											
管路土工											
管路掘削											
		1		式						工種	第0001号表
管路埋戻											
		1		式						工種	第0002号表
発生土処理											
		1		式						工種	第0003号表
管布設工											
ダクタイル鑄鉄管 呼び径200mm											
		84		m						科目	第0001号表

(工事費内訳書)

本工事費（交付金）

頁0-0004

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
空気弁・排泥弁設置工										
	3		箇所						科目	第0002号表
圧送管排泥 呼び径100mm										
	1		箇所						科目	第0003号表
管路土留工										
建込簡易土留工										
	39		m						科目	第0004号表
管きょ工（推進）										
銅製さや管ボーリング方式推進工 銅管径400mm×本管径200mm										
銅製さや管ボーリング式一重ケーシング方式 さや管径400mm 本管径200mm										
	65		m						科目	第0005号表
立坑工										
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート φ2500 t=2.7mm										
	1		箇所						科目	第0006号表

(工事費内訳書)

本工事費（交付金）

頁0-0005

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
ライナープレート式土留工及び土工 円形ライナープレート φ1500 t=2.7mm						科目 第0007号表
	1		箇所			
＊処分費等＊						
残土処分工 明科建材(株)						
	70		m3			
＊すべての諸経費の対象額に含めない＊						
スクラップ 配合 可鍛コロ（旧配合くずA）						
	0.08		t			
薬液注土工						
薬液注土工						
薬液注土工						科目 第0008号表
	34		本			
付帯工						

(工事費内訳書)

本工事費（交付金）

頁0-0006

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装撤去工						
舗装版取壊工						
	1		式			工種 第0004号表
舗装復旧工						
	1		式			工種 第0005号表
仮設工						
安全費						
安全費						
	1		式			工種 第0006号表
直接工事費						
運搬費						
仮設材等の運搬 製品長12m以内 運搬距離8.4km（搬入） ライナープレート						
	4		t			施工 第0-0109号表

(工事費内訳書)

本工事費（交付金）

頁0-0007

費目・工種・種別・細別・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設材等の運搬 製品長12m以内 運搬距離8.4km（搬出） ライナープレート	1	t				施工 第0 -0110号表
仮設材等の積込み，取卸し費 基地積込み，現場取卸し（片道分） ライナープレート	4	t				施工 第0 -0111号表
仮設材等の積込み，取卸し費 現場積込み，基地取卸し（片道分） ライナープレート	1	t				施工 第0 -0112号表
仮設材等の運搬 製品長12m以内 運搬距離8.4km（×往復） 建込簡易土留	12	t				施工 第0 -0113号表
仮設材等の積込み，取卸し費 積込み，取卸し（往復分） 建込簡易土留	12	t				施工 第0 -0114号表
技術管理費						
通水試験工 既設管と連絡せず給水車で注水 84m+3m	87	m				施工 第0 -0115号表
修正CBR試験 刊行物単価	1	試験				
現場環境改善費（率分）						

(工事費内訳書)

*****本工事費（交付金）*****

頁0-0008

費目・工種・種別・細別・施工名称など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
	率 0.0117						
共通仮設費率計算額							
補正無の率 0.0967				補正後の率 0.1183			
共通仮設費計							
純工事費							
現場管理費							
補正無の率 0.3251				補正後の率 0.3738			
工事原価							
一般管理費等				前払率補正 1.0000			
補正無の率 0.1801				契約保証補正 0.0004			
工事価格計							

(工事費内訳書)

*****本工事費（交付金）*****

頁0-0009

[illegible]

工 種 明 細 表

工種 第0002号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
埋戻し 土砂					
	30	m 3			施工 第0 -0097号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3（平積0.2） 礫質土					
	50	m 3			施工 第0 -0098号表
埋戻し 洗浄砂					
	10	m 3			施工 第0 -0099号表
機械投入埋戻工 BH山積0.28m3（平積0.2） 砂					
	10	m 3			施工 第0 -0101号表
*** 単位当り ***					
	1	式			

工 種 明 細 表

工種 第0004号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下					施工 第0 -0102号表
	200	m			
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし					施工 第0 -0103号表
	120	m 2			
殻運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 現場～共和リテック9.8km					施工 第0 -0104号表
	5	m 3			
処分費等					
アスファルト廃材処理費 アスファルト掘削廃材 共和リテック(株)					
	10	t			
*** 単位当り ***					
	1	式			

工 種 明 細 表

工種 第0005号表

工 種 ・ 施 工 名 称 など		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
舗装工						
表層（車道・路肩部） 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 平均仕上り厚30mm						
		120	m2			施工 第0 -0105号表
上層路盤（車道・路肩部） 粒度調整碎石 全仕上り厚110mm						
		118	m2			施工 第0 -0106号表
下層路盤（車道・路肩部） 全仕上り厚200mm 1層施工						
		114	m2			施工 第0 -0107号表
*** 単位当り ***						
		1	式			

安全費

工種明細表

工種 第0006号表

頁0-0015

[illegible]

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0016

呼び径200mm

84

m

施工名称など	数	量	単位	単価	金額	備考
下水道用ダクトイル鋳鉄管 直管 呼び径200mm S種 GX形						
刊行物単価	18		本			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm-100mm GX形 二受T字管						
刊行物単価	1		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 90°曲管						
刊行物単価	4		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 5 5/8°曲管						
刊行物単価	4		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm-75mm GX形 渦巻式フランジ付T字管						
刊行物単価	1		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm-75mm GX形フランジ付T字管						
刊行物単価	2		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 継ぎ輪						
刊行物単価	4		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 両受短管						
刊行物単価	1		個			
下水道用ダクトイル鋳鉄管 呼び径200mm GX形 両受ワットシル仕切弁						
刊行物単価	2		基			

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0017

呼び径200mm

84

m

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仕切弁篋 φ200 DP1.00m用 調査単価	1	基			
仕切弁篋 φ75～200 DP2.00m以下用 調査単価	1	基			
下水道用接合材 呼び径200mm 異形管用 GX形 刊行物単価	8	個			
下水道用接合材 呼び径200mm GX形 G-L i n k 刊行物単価	18	個			
下水道用接合材 呼び径200mm GX形 ライナ 刊行物単価	12	個			
鋳鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ200mm	84	m			施工 第0 -0001号表
鋳鉄管切断工 φ200mm（エンジンカッター）	16	口			施工 第0 -0003号表
G X形継手工（直管） φ200mm	18	口			施工 第0 -0004号表
G X形継手工（異形管） φ200mm	8	口			施工 第0 -0005号表

ダクトイル鋳鉄管

科目内訳表

科目 第0001号表

頁0-0018

呼び径200mm

84

m

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
GX形継手工 (G-Link) φ200mm 異形管継手工60%増					
	18	口			施工 第0 -0006号表
鋳鉄製仕切弁設置工 φ200mm (機械設置)					
	2	基			施工 第0 -0007号表
仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 A形 1号					
	1	箇所			施工 第0 -0008号表
仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 A形 1号					
	1	箇所			施工 第0 -0008号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ200mm					
	84	m			施工 第0 -0009号表
管明示テープ工 φ100・200・250mm					
	84	m			施工 第0 -0010号表
管明示シート工					
	64	m			施工 第0 -0011号表
*** 合 計 ***					
	84	m			
*** 単位当り ***					
	1	m			

施 工 名 称 など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
下水道用ダクタイル鋳鉄管 直管 呼び径75mm S種 GX形					
刊行物単価	2	本			
フランジ蓋 径75mm					
刊行物単価	1	個			
補修弁 呼び径75mm 7.5K					
刊行物単価	1	組			
フランジ短管 径75mm×L400mm					
刊行物単価	1	本			
ダクタイル鋳鉄管 短管1号 呼び径75mm GX形					
調査単価	1	個			
ダクタイル鋳鉄管 短管2号 呼び径75mm GX形					
調査単価	1	個			
空気・排泥弁室 角形□600×450、レジコン製、鉄蓋含む DP1.00m～2.00m用					
調査単価	1	組			
フランジ接合材 呼び径75mm GF型 SUS304 7.5K					
刊行物単価	3	組			
フランジ接合材 呼び径75mm RF型 SUS304 7.5K					
刊行物単価	1	組			

空気弁・排泥弁設置工

科目内訳表

科目 第0002号表

頁0-0020

3

箇所
考

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
下水道用接合材 呼び径75mm GX形 G-L i n k					
刊行物単価	1	個			
下水道用接合材 呼び径75mm GX形 ライナ					
刊行物単価	2	個			
下水道用空気弁 呼び径75mm 7.5K					
調査単価	2	基			
補修弁 呼び径75mm 7.5K					
刊行物単価	2	組			
フランジ短管 径75mm×L400mm					
刊行物単価	2	本			
フランジ接合材 呼び径75mm GF型 SUS304 7.5K					
刊行物単価	4	組			
フランジ接合材 呼び径75mm RF型 SUS304 7.5K					
刊行物単価	2	組			
空気・排泥弁室 角形□600×450、レジコン製、鉄蓋含む DP1.00m～2.00m用					
調査単価	1	組			
空気・排泥弁室 角形□600×450、レジコン製、鉄蓋含む DP1.00m～2.00m用					
調査単価	1	組			

施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋳鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ75mm							
		9		m			施工 第0 -0012号表
鋳鉄管切断工 φ100mm以下（エンジンカッター）							
		1		口			施工 第0 -0013号表
G X形継手工（直管） φ150mm以下							
		2		口			施工 第0 -0014号表
G X形継手工（G-Link） φ100mm以下 異形管継手工60%増							
		1		口			施工 第0 -0015号表
フランジ継手工 φ75mm 7.5K							
		4		口			施工 第0 -0016号表
点検口室レジンコンクリート製ボックス設置工							
		1		個			施工 第0 -0017号表
鋳鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ75mm							
		1		m			施工 第0 -0012号表
空気弁設置工 φ100mm以下（機械設置）							
		2		基			施工 第0 -0025号表
フランジ継手工 φ75mm 7.5K							
		2		口			施工 第0 -0016号表

圧送管排泥

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0023

呼び径100mm		1					箇所
施工名称など		数量	単位	単価	金額	備	考
下水道用ダクタイル鋳鉄管 直管 呼び径100mm S種 GX形							
	刊行物単価	1	本				
下水道用ダクタイル鋳鉄管 呼び径100mm GX形 45°曲管							
	刊行物単価	2	個				
下水道用ダクタイル鋳鉄管 呼び径100mm GX形 受・挿しワトシル仕切弁							
	刊行物単価	1	基				
仕切弁筐 φ75～200 DP2.00m以下用							
	調査単価	1	基				
VCジョイント φ100							
	調査単価	1	個				
下水道用接合材 呼び径100mm 異形管用 GX形							
	刊行物単価	4	個				
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 呼び径100mm 長5.0m							
	刊行物単価	4	本				
耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 呼び径100mm 45°曲管							
	刊行物単価	1	個				
ロケーティングワイヤー 径4.4mm							
	調査単価	19	m				

圧送管排泥

科目内訳表

科目 第0003号表

頁0-0024

呼び径100mm						1	箇所
施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋳鉄管布設工 吊込み据付工（機械）φ100mm							
		3		m			施工 第0 -0027号表
鋳鉄管切断工 φ100mm以下（エンジンカッター）							
		1		口			施工 第0 -0013号表
G X形継手工（異形管） φ100mm以下							
		4		口			施工 第0 -0028号表
メカニカル継手工 φ100mm以下							
		2		口			施工 第0 -0029号表
ポリエチレンスリーブ被覆工 φ100mm							
		3		m			施工 第0 -0030号表
管明示テープ工 φ100・200・250mm							
		3		m			施工 第0 -0010号表
管明示シート工							
		2		m			施工 第0 -0011号表
硬質塩化ビニル管布設工 呼び径100mm							
		19		m			施工 第0 -0031号表
硬質塩化ビニル管切断工 φ75～250mm							
		2		口			施工 第0 -0032号表

呼び径100mm

科目 第0003号表

頁0-0025

1

箇所
考

施 工 名 称 など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
硬質塩化ビニル管RR継手工 呼び径100mm	5		口			施工 第0 -0033号表
管明示テープ工 φ100・200・250mm	19		m			施工 第0 -0010号表
管明示シート工	19		m			施工 第0 -0011号表
ロケーティングワイヤー工	19		m			施工 第0 -0034号表
コンクリート削孔（コンクリート穿孔機） 100mm以上110mm未満 50mm以上200mm未満	1		孔			施工 第0 -0035号表
*** 単位当り ***	1		箇所			

建込簡易土留工

科目内訳表

科目 第0004号表

頁0-0026

施 工 名 称 など		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）							
		17		m			施工 第0 -0036号表
たて込み簡易土留（引抜工）							
		17		m			施工 第0 -0038号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.5m掘削幅3.0m未満							
		1		式			施工 第0 -0039号表
たて込み簡易土留（建込工） ｸｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）							
		22		m			施工 第0 -0040号表
たて込み簡易土留（引抜工）							
		22		m			施工 第0 -0041号表
たて込み簡易土留機材賃料 供用日数分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満							
		1		式			施工 第0 -0042号表
たて込み簡易土留機材賃料 修理費及び損耗費分 深さ2.0m掘削幅3.0m未満							
		1		式			施工 第0 -0043号表
*** 合 計 ***							
		39		m			
*** 単位当り ***							
		1		m			

さや管径400mm 本管径200mm

科目 第0005号表

頁0-0027

65

m

[illegible]

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

科目 第0006号表

頁0-0028

円形ライナープレート φ2500 t=2.7mm

1

箇所
考

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ2500 残置					
刊行物単価	7.5	m			
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ2500 損料					
刊行物単価	1.5	m			
ライナープレート掘削土留工 2000～3900mm（円形） 礫質土					
	4.0	m			施工 第0 -0072号表
ライナープレート掘削土留工 2000～3900mm（円形） 礫質土					
	5.0	m			施工 第0 -0075号表
ライナープレート取り除き工 1500～3000mm（円形） ライナープレート廃棄					
	1.5	m			施工 第0 -0077号表
鋼材切断工					
	7.9	m			施工 第0 -0065号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 養生無し 小型車割増なし 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホ（クレーン機能付）打設	1	m ³			施工 第0 -0078号表
機械投入埋戻工 BH山積0.45m ³ （平積0.35） 砂					
	40	m ³			施工 第0 -0079号表
グラウト注入工					
	7	m ³			施工 第0 -0082号表

科目内訳表

頁0-0029

1

[illegible]

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

科目 第0007号表

頁0-0030

円形ライナープレート φ1500 t=2.7mm

1

箇所
考

施 工 名 称 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ1500 残置					
刊行物単価	8.5	m			
ライナープレート（円形）黒皮 板厚2.7mm φ1500 損料					
刊行物単価	1.5	m			
掘削土留 A工法（人力掘削，機械排土） 杭径1. 5m					
	1	本			施工 第0 -0085号表
ライナープレート取り除き工 1500～3000mm（円形） ライナープレート廃棄					
	1.9	m			施工 第0 -0077号表
鋼材切断工					
	4.7	m			施工 第0 -0065号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 養生無し 小型車割増なし 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホ（クレーン機能付）打設					
	1	m3			施工 第0 -0078号表
グラウト注入工					
	4	m3			施工 第0 -0082号表
機械投入埋戻工 BH山積0.45m3（平積0.35） 砂					
	20	m3			施工 第0 -0079号表
発生土運搬工 DT4t 積み 運搬距離2. 9km 良好 BH クレーン付山積0.45m3（平積0.35m3）積込					
	20	m3			施工 第0 -0084号表

ライナープレート式土留工及び土工

科目内訳表

科目 第0007号表

円形ライナープレート φ1500 t=2.7mm

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
*** 単位当り ***							
		1		箇所			

科目内訳表

科目 第0008号表

施 工 名 称 な ど		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
二重管ストレーナ工法 2セット 土被り長3. 2m 1本当り注入量514L φ2500 側壁部							
		19		本			施工 第0 -0087号表
二重管ストレーナ工法 2セット 土被り長3. 2m 1本当り注入量488L φ1500 側壁部							
		15		本			施工 第0 -0090号表
注入設備据付・解体（車上）							
		1		現場			施工 第0 -0091号表
*** 合 計 ***							
		34		本			
*** 単位当り ***							
		1		本			

施工内訳表

頁0-0033

鑄鉄管布設工

吊込み据付工（機械）φ200mm

施工 第0 -0001号表

10 m 当り

[illegible]

機械運転 (クレーン付トラック)
4 t積 2.9 t吊

頁0-0034

1 時間 当り

[illegible]

施工 第0 -0003号表

頁0-0035

1 口 当り

[illegible]

G X形継手工（直管）

施工 第0 -0004号表

頁0-0036

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0038

G X形継手工 (G-Link)

Φ 200mm

異形管継手工60%増

施工 第0 -0006号表

1

1

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0039

鑄鉄製仕切弁設置工
φ200mm（機械設置）

施工 第0 -0007号表

1 基 当 り

[illegible]

切弁筐(ねじ式弁筐)設置工 施 工 内 訳 表

頁0-0040

仕切弁筐(ねじ式弁筐)設置工

A形 1号

施工 第0 -0008号表

1

箇所 当り

[illegible]

施工 第0 -0009号表

頁0-0041

100

m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0042

管明示テープ工
φ100・200・250mm

施工 第0 -0010号表

100

m

当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0011号表

頁0-0043

100 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0044

鑄鉄管布設工

吊込み据付工（機械） φ75mm

施工 第0 -0012号表

10 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0045

鑄鐵管切斷工

φ100mm以下（エンジンカッター）

施工 第0 -0013号表

1 口 当り

[illegible]

G X形継手工（直管）
φ150mm以下

頁0-0046

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0047

G X形継手工 (G-Link)

φ100mm以下

異形管継手工60%増

施工 第0 -0015号表

1

当り

[illegible]

ランジ継手工 施 工 内 訳 表

頁0-0048

フランジ継手工

Φ75mm 7.5K

施工 第0 -0016号表

1 口 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0017号表

頁0-0049

1 個 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消火栓（排泥弁）設置工 地下式（機械施工）単口	1	箇所			施工 第0-0018号表
仕切・空気弁ボックス鉄蓋設置工 角形2号 600×500mm	1	個			施工 第0-0019号表
仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工 角形2号 600×500mm 調整リング50mm	1	個			施工 第0-0020号表
仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工 角形2号 600×500mm 上部壁200mm	1	個			施工 第0-0021号表
仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工 角形2号 600×500mm 中部壁100・200mm	1	個			施工 第0-0022号表
仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工 角形2号 600×500mm 下部壁400mm	1	個			施工 第0-0023号表
仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工 角形2号 600×500mm 底盤40mm	1	個			施工 第0-0024号表
*** 単位当り ***	1	個			

施工内訳表

頁0-0050

消火栓（排泥弁）設置工
地下式（機械施工）単口

施工 第0 -0018号表

1

箇所 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0051

仕切・空気弁ボックス鉄蓋設置工

角形2号 600×500mm

施工 第0 -0019号表

1 個 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0052

仕切・空気弁レジンコンクリート製ボックス設置工
 角形2号 600×500mm 調整リング 50mm

施工 第0 -0020号表

1 個 当り

[illegible]

個

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0054

仕切・空気弁レインコンクリート製ボックス設置工
角形2号 600×500mm 中部壁100・200mm

施工 第0 -0022号表

1 個 当り

[illegible]

施工 第0 -0023号表

1

[illegible]

個

角形2号 600×500mm 底盤40mm

[illegible]

施工 第0 -0025号表

頁0-0057

1 基 当 り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0026号表

1 個 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0059

鑄鉄管布設工

吊込み据付工（機械） φ100mm

施工 第0 -0027号表

10 m 当り

[illegible]

G X形継手工（異形管）
φ100mm以下

頁0-0060

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0061

メカニカル継手工
φ100mm以下

施工 第0 -0029号表

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0062

ポリエチレンスリーブ被覆工
φ100mm

施工 第0 -0030号表

100

m

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0063

硬質塩化ビニル管布設工
呼び径100mm

施工 第0 -0031号表

10

m

当り

[illegible]

質塩化ビニル管切断工

施 工 内 訳 表

頁0-0064

硬質塩化ビニル管切断工

$\phi 75 \sim 250 \text{mm}$

施工 第0 -0032号表

1 口 当り

[illegible]

硬質塩化ビニル管RR継手工
呼び径100mm

頁0-0065

1 口 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0034号表

100

m

当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0067

コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）

施工 第0 -0035号表

100mm以上110mm未満

50mm以上200mm未満

1

孔 当り

機械構成比： 2.73%

労務構成比：

63.54%

材料構成比：

33.73%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
電動式コアボーリングマシン 簡易仕様型 最大穿孔径2 5 c m	1.41%	供用日		電動式コアボーリングマシン 簡易仕様型		
発動発電機〔ガソリンエンジン駆動〕賃料 3 k V A	0.81%	日		発動発電機〔ガソリンエンジン駆動〕賃料		
特殊作業員	36.39%	人		特殊作業員		
普通作業員	9.94%	人		普通作業員		
土木一般世話役	5.34%	人		土木一般世話役		
ダイヤモンドビット 1 1 0 mm スタンダード	30.93%	個		ダイヤモンドビット 1 1 0 mm		

施 工 内 訳 表

頁0-0068

コンクリート削孔（コンクリート穿孔機）

施工 第0 -0035号表

100mm以上110mm未満

50mm以上200mm未満

1

孔 当り

機械構成比： 2.73%

労務構成比：

63.54%

材料構成比：

33.73%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	2.28%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
削孔径：100mm以上110mm未満 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				削孔深さ：50mm以上200mm未満		

施 工 内 訳 表

頁0-0069

たて込み簡易土留（建込工）

施工 第0 -0036号表

ｸﾛｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3）

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） ｸﾛｰﾗ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.300	時間			施工 第0-0037号表
土木一般世話役	0.230	人			
特殊作業員	0.230	人			
普通作業員	0.470	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： ｸﾛｰﾗ型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：2.01 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

施工内訳表

頁0-0070

バックホウ運転 (機-1)
クローラ型・標準 山積0.28m³

排出ガス対策型 2 次基準

施工 第0 -0037号表

1 時間 当り

[illegible]

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.140	人			
特殊作業員	0.140	人			
普通作業員	0.270	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.140	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：2.01					

たて込み簡易土留機材質料 供用日数分

頁0-0072

施工 第0 -0039号表

1 式 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0073

たて込み簡易土留（建込工）
 クロー型 山積0.28m3（平積0.2m3）

施工 第0 -0040号表

10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
バックホウ運転（機－1） クローラ型・標準 山積0. 2 8m3 排出ガス対策型2次基準	1.100	時間			施工 第0-0037号表
土木一般世話役	0.200	人			
特殊作業員	0.200	人			
普通作業員	0.400	人			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
土の状態〔作業効率E〕：地山 バックホウ規格： クロー型 山積0.28m3（平積0.2m3） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			掘削深（m）：1.79 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準		

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.120	人			
特殊作業員	0.120	人			
普通作業員	0.230	人			
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕賃料 4. 9 t 吊（燃料油脂費含む）	0.120	日			
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	10	m			
*** 単位当り ***	1	m			
掘削深（m）：1.79					

たて込み簡易土留機材質料 供用日数分

頁0-0075

施工 第0 -0042号表

1 式 当り

[illegible]

たて込み簡易土留機材質料 修理費及び損耗費分

頁0-0076

施工 第0 -0043号表

1 式 当り

深さ2.0m掘削幅3.0m未満

[illegible]

施工内訳表

頁0-0077

鋼製さや管推進工ホーリング式一重ケーシング方式
打撃式掘削方式 径400mm

施工 第0 -0044号表

1 式 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0078

推進用鋼管

$\phi 400\text{mm}$

施工 第0 -0045号表

1 m 当り

[illegible]

推進工（ボーリング式一重ケーシング方式）
打撃式掘削方式 径400mm

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0046号表

頁0-0079

3 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	1.0	人			
とび工	1.0	人			
溶接工	1.0	人			
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5 t 積2.9 t 吊	1.0	日			施工 第0-0047号表
機械損料	1.0	日			施工 第0-0048号表
機械・器具損料①	1.0	日			施工 第0-0049号表
機械・器具損料②	1.0	日			施工 第0-0050号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100／125 kVA	1.0	日			
空気圧縮機 [可搬式・エンジン・スクリュ] 排ガス1次 5.0 m3／分	1.0	日			
空気圧縮機 [可搬式・エンジン・スクリュ] 排ガス1次 10.5～11.0 m3／分	1.0	日			

施工内訳表

頁0-0080

推進工（ボーリング式一重ケーシング方式）
打撃式掘削方式 径400mm

施工 第0 -0046号表

3 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0081

トラック運転 (機-18)
クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊

施工 第0 -0047号表

1 日 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0048号表

1 日 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0049号表

1 目 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0050号表

1 日 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0051号表

頁0-0085

1 m 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0086

注入材料

岩質土

施工 第0 -0052号表

1

m 3

当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0053号表

1 m3 当り

[illegible]

管内清掃工（ずり出し工）

$1\text{m}^3 \div 0.4^2 \pi / 4 = 8.0\text{m} / \text{m}^3$

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0054号表

頁0-0088

15 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	1.0	人			
普通作業員	2.0	人			
機械損料 HR-400型	1.0	日			刊行物単価
器具損料	1.0	日			施工 第0-0055号表
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	1.0	日			施工 第0-0047号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100／125kVA	1.0	日			
軽油 小型ローリー パトロール給油	88	L			
諸雑費(エンジンオイル等)	3	%			労務費の3%
*** 合 計 ***	15	m			
*** 単位当り ***	1	m			

器具損料

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0091

ダンプトラック運転 (機-22)
オンロード・ディーゼル 4t積級

施工 第0 -0057号表

1 日 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級	1.290	供用日			
運転手 (一般)	1.000	人			
軽油 小型ローリー パトロール給油	32.000	L			
タイヤ損耗費 ダンプトラック 4 t 良好	1.290	供用日			
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	日			
規格：オンロード・ディーゼル 4 t 積級 岩石割増：岩石割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ 一般運転手 (人／日)：1 タイヤ損耗費 (供用日／日)：1.29			タイヤ損耗費区分 (運搬路面状況)：運搬路面状況 良好 供用日当運転時間：0 ダンプトラック (供用日／日)：1.29 軽油 (L／日)：32		

施工 第0 -0058号表

頁0-0092

鋼管插入工

Φ400mm

65

m

当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0093

EPSリング取付挿入工

本管径200mm

施工 第0 -0059号表

1 口 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.0	人			
特殊作業員	2.0	人			
普通作業員	2.0	人			
グラウトポンプ [二筒複動ピストン式] 吐出量37～100L/分	1.0	日			
グラウトミキサ [立型1槽式] 攪拌容量200L×1槽	1.0	日			
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100/125kVA	1.0	日			
水槽 (一般工事用) [鋼板製簡易水槽] 5m3	1.0	供用日			
注入用耐圧ホース 25mm 12m/本	1.0	日			刊行物単価
注入材料 (中込材)	5.0	m3			施工 第0-0061号表
諸雑費(エンジン油等)	2	%			労務費の2%
*** 合 計 ***	5	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			

施工内訳表

施工 第0 -0061号表

1 m3 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0062号表

1 式 当り

[illegible]

頁0-0097

1 箇所 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
電力料金 使用料金 臨時 低圧電力	2.700	kWh			
溶接棒（4 3 0 1） 径4	0.400	kg			
土木一般世話役	0.010	人			
溶接工	0.076	人			
普通作業員	0.021	人			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 2 5 0 A	0.076	日			
諸雑費	30.000	%			
*** 単位当り ***	1	m			
電力区分：低圧 臨時			豪雪割増：豪雪割増	工種条件と同じ	

施工内訳表

施工 第0 -0065号表

1 m 当り

[illegible]

推進設備等設置・撤去工

施工内訳表

施工 第0 -0067号表

頁0-0101

1 式 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	4.5	人			
特殊作業員	10.5	人			
設備機械工	3.5	人			
普通作業員	6.5	人			
溶接工	2.5	人			
電工	3.5	人			
とび工	3.5	人			
移動式クレーン作業料金 16t吊り	2.0	日			刊行物単価
トラック運転 (機－18) クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	2.5	日			施工 第0-0047号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100／125kVA	3.0	日			
軽油 小型ローリー パトロール給油	264	L			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 300A	2.0	日			

施工内訳表

施工 第0 -0068号表

1

箇所 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.4	人			
溶接工	0.4	人			
特殊作業員	0.8	人			
普通作業員	0.8	人			
トラック運転 (機一18) クレーン装置付 4～4.5 t積2.9 t吊	0.4	日			施工 第0-0047号表
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動] 排ガス1次 100／125 kVA	0.4	日			
軽油 小型ローリー パトロール給油	35.2	L			
電気溶接機 [交流アーク式] 手動・電撃防止器内蔵型 300 A	0.4	日			
諸雑費(溶接棒、エンジンオイル、雑鋼材等)	3	%			労務費の3%
*** 単位当り ***	1	箇所			

先導体撤去工（解体回収）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0070号表

頁0-0105

1箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.8	人			
溶接工	1.6	人			
特殊作業員	0.8	人			
普通作業員	1.6	人			
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5 t積2.9 t吊	0.8	日			施工 第0-0047号表
先導体組立整備費 345,000円×0.9×(180-65)/180	1	式			調査単価
諸雑費(酸素、アセチン)	2	%			労務費の2%
*** 単位当り ***	1	箇所			

施工内訳表

施工 第0 -0071号表

1

箇所 当り
考

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0107

ライナープレート掘削土留工
2000～3900mm（円形）

施工 第0 -0072号表

礫質土

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
バックホウ運転（機－18） クローラ型・標準 山積0.45m ³ 排出ガス対策型1次基準	0.610	日			施工 第0-0073号表
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	0.610	日			施工 第0-0074号表
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：バックホウ 平積0.35m ³ 吊機械の機種：トラック（クレーン装置付）4t積 2.9t吊			径・短辺幅（mm）：2000～3900mm（円形） バックホウ機種：排出ガス対策型1次基準 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

頁0-0108

バックホウ運転 (機-18)
クローラ型・標準 山積0.45m³

排出ガス対策型1次基準

施工 第0 -0073号表

1 日 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0109

トラック運転 (機-18)
クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊

施工 第0 -0074号表

1 日 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0110

ライナープレート掘削土留工
2000～3900mm（円形）

礫質土

施工 第0 -0075号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.610	人			
トンネル特殊工	1.830	人			
普通作業員	0.610	人			
クラムシェル運転（機－18） テレスコピック式 0.4m3	0.610	日			施工 第0-0076号表
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	0.610	日			施工 第0-0074号表
諸雑費	1	式			
*** 単位当り ***	1	m			
土質区分：礫質土 掘削積込の機種：クラムシェル 平積0.4m3（深堀用） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			径・短辺幅（mm）：2000～3900mm（円形） 吊機械の機種：トラック（クレーン装置付）4t積 2.9t吊		

施工内訳表

頁0-0111

クラムシェル運転 (機-18)
 テレスコピック式 0.4m³

施工 第0 -0076号表

1 日 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0112

ライナープレート取り除き工
1500～3000mm（円形）

ライナープレート廃棄

施工 第0 -0077号表

1 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.290	人			
特殊作業員	0.290	人			
普通作業員	0.580	人			
トラック運転（機－18） クレーン装置付 4～4.5t積2.9t吊	0.290	日			施工 第0-0074号表
諸雑費	1	式			
1m当り		m			
*** 単位当り ***	1	m			
径・短辺幅（mm）：1500～3000（円形） 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			ライナープレート	区分：ライナープレート廃棄	

施 工 内 訳 表

頁0-0113

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

施工 第0 -0078号表

養生無し 小型車割増なし

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比： 3.60% 労務構成比：

33.17%

材料構成比： 63.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 ～排ガス2014 山積0.8m ³	3.40%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
特殊作業員	10.34%	人		特殊作業員		
普通作業員	7.85%	人		普通作業員		
運転手 (特殊)	6.58%	人		運転手 (特殊)		
土木一般世話役	6.53%	人		土木一般世話役		
生コン 21-8-25 (20) -N (W/C = 60%以下)	61.44%	m ³		生コンクリート 24-12-25 高炉 W/C 55%		

施 工 内 訳 表

頁0-0114

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

養生無し 小型車割増なし

機械構成比： 3.60% 労務構成比：

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

材料構成比： 63.23%

バックホ(クレーン機能付)打設

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0078号表

1
標準単価：

m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
軽油 小型ローリー パトロール給油	1.69%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
構造物種別：無筋・鉄筋構造物 養生工の種類：養生無し コンクリート規格：21-8-25(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増：夜間割増なし				打設工法：バックホ(クレーン機能付)打設 コンクリート種類： 普通 (N) 生コンクリート小型車割増：小型車割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

機械投入埋戻工 BH山積0.45m3（平積0.35）
砂

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0079号表

頁0-0115

100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	126.000	m 3			
バックホウ運転（機－1） クローラ型・クレーン付 山積0. 4 5 m 3 排出ガス対策型1次基準	6.200	時間			施工 第0-0080号表
タンパ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0081号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.45m3（平積0.35m3） 土質区分：砂 バックホウ機種：排出ガス対策型1次基準			埋戻土単価（円／m3）： 土量の変化率：ほぐした土量／締固め後の土量（L／C） 豪雪割増（バックホウ）：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

頁0-0116

バックホウ運転 (機-1)

クローラ型・クレーン付 山積0.45m³ 排出ガス対策型1次基準

施工 第0 -0080号表

1 時間 当り

[illegible]

タンパ締固め

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0081号表

頁0-0117

機械構成比： 1.17% 労務構成比： 97.16% 材料構成比： 1.67% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
タンパ（ランマ）賃料 質量60～80kg	1.17%	日		タンパ（ランマ）賃料		
特殊作業員	51.21%	人		特殊作業員		
普通作業員	45.95%	人		普通作業員		
ガソリン レギュラー スタンド	1.67%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

グラウト注入工

施工内訳表

施工 第0 -0082号表

頁0-0118

1 m3 当り

[illegible]

施工内訳表

施工 第0 -0083号表

1 m3 当り

[illegible]

発生土運搬工 DT 4 t 積み

頁0-0120

施工 第0 -0084号表

運搬距離 2.9 km 良好

BH クレーン付山積0.45m3 (平積0.35m3) 積込

10

m 3

当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0121

掘削土留

A工法（人力掘削，機械排土）

杭径1.5m

施工 第0 -0085号表

1 本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.736	人			
トンネル特殊工	5.472	人			
特殊作業員	2.736	人			
普通作業員	2.736	人			
クラムシェル運転（機－18） テレスコピック式・排ガス1次 0.4m3	2.736	日			施工 第0-0086号表
ラフテレーンクレーン〔油圧伸縮ジブ〕賃料 排ガス2011 25t吊(燃料油脂費含む)	2.736	日			
諸雑費	8.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			
工法：A工法（人力掘削，機械排土） 砂・砂質・粘性・レキ質土の掘削長（m）：9.6 RTC賃料補正係数：1			杭径（m）：1.5 岩塊・玉石・軟岩～硬岩の掘削長（m）：0 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

頁0-0122

クラムシェル運転 (機-18)
 テレスコピック式・排ガス1次 0.4m3

施工 第0 -0086号表

1 日 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0123

二重管ストレーナ工法

2セット 土被り長3.2m

1本当り注入量514L

φ2500 側壁部

施工 第0 -0087号表

1 本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.118	人			
特殊作業員	0.354	人			
普通作業員	0.236	人			
注入材	514.000	L			
ボーリングマシン [油圧式] 5.5kW級	0.236	日			
薬液注入施工機器 [薬液注入ポンプ] 5～20L/分×2 (9.8MPa)	0.236	日			
削孔消耗材料費 レキ質土	4.600	m			施工 第0-0088号表
注入消耗材料費	0.514	kL			施工 第0-0089号表
諸雑費	22.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			
セット数：2セット 砂質土の削孔長 L02 (m)：0 土被り長 L2 (m)：3.2			レキ質土の削孔長 L01 (m)：4.6 粘性土の削孔長 L03 (m)：0 1本当り注入量 Qs (L)：514		
水ガラス積算流量計の有無：水ガラス積算流量計なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			特許料金：特許料金計上なし 注入材料単価 (円/L)：		

施工内訳表

頁0-0124

削孔消耗材料費

レキ質土

施工 第0 -0088号表

10

m

当り

[illegible]

注入消耗材料費

頁0-0125

施工 第0 -0089号表

10

k L 当り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0126

二重管ストレーナ工法

2セット 土被り長3. 2m

1本当り注入量488L

φ1500 側壁部

施工 第0 -0090号表

1 本 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.116	人			
特殊作業員	0.348	人			
普通作業員	0.232	人			
注入材	488.000	L			
ボーリングマシン [油圧式] 5. 5 kW級	0.232	日			
薬液注入施工機器 [薬液注入ポンプ] 5～20L／分×2 (9. 8MPa)	0.232	日			
削孔消耗材料費 レキ質土	4.600	m			施工 第0-0088号表
注入消耗材料費	0.488	kL			施工 第0-0089号表
諸雑費	22.000	%			
*** 単位当り ***	1	本			
セット数：2セット 砂質土の削孔長 L02 (m)：0 土被り長 L2 (m)：3.2			レキ質土の削孔長 L01 (m)：4.6 粘性土の削孔長 L03 (m)：0 1本当り注入量 Qs (L)：488		
水ガラス積算流量計の有無：水ガラス積算流量計なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			特許料金：特許料金計上なし 注入材料単価 (円／L)：		

注入設備据付・解体（車上）

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0091号表

頁0-0127

1 現場 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2	人			
特殊作業員	2.6	人			
普通作業員	3.7	人			
トラック運転（機－1） クレーン装置付 4～4. 5 t 積 2. 9 t 吊	14.5	時間			施工 第0-0092号表
トラック [普通型] 4～4. 5 t 積	2	日			
諸雑費	1	式			
小計					
トラック損料（注入時）	4.02	日			施工 第0-0093号表
*** 単位当り ***	1	現場			

施工内訳表

頁0-0128

トラック運転 (機-1)
クレーン装置付 4~4.5t積2.9t吊

施工 第0 -0092号表

1 時間 当り

[illegible]

施工 第0 -0093号表

頁0-0129

トラック損料（注入時）

1 目 当 り

[illegible]

施 工 内 訳 表

頁0-0130

床掘り
土砂

施工 第0 -0094号表

1 m3 当り

機械構成比：18.73%		労務構成比：74.16%		材料構成比：7.11%		市場単価構成比：0.00%		標準単価：	
代 表 機 労 材 規 格		構 成 比	単 位	単 価		代 表 機 労 材 規 格(東京地区)		単 価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型） 排ガス2次 山積0. 2 8m3		18.73%	供用日			バックホウ（クローラ型） 排ガス2次			
運転手（特殊）		40.26%	人			運転手（特殊）			
普通作業員		33.90%	人			普通作業員			
軽油 小型ローリー パトロール給油		7.11%	L			軽油 パトロール給油			
積算単価			式			積算単価			
*** 単位当り ***									

施工内訳表

頁0-0131

床掘り

土砂

機械構成比： 18.73%

勞務構成比： 74.16%

材料構成比： 7.11%

市場単価構成比： 0.00%

1
標準単価：

m 3 当り

施工 第0 -0094号表

[illegible]

機械掘削工 (バックホウ)
クローラ型山積0.28m³ (平積0.2m³)

100

m 3

当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	1.900	人			
普通作業員	5.000	人			
バックホウ運転 (機-1) クローラ型・標準 山積0.28m ³ 排出ガス対策型2次基準	11.100	時間			施工 第0-0096号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m ³			
*** 単位当り ***	1	m ³			
バックホウ規格： クローラ型山積0.28m ³ (平積0.2m ³) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ			バックホウ機種：	排出ガス対策型2次基準	

施工内訳表

頁0-0133

バックホウ運転 (機-1)
クローラ型・標準 山積0.28m³

排出ガス対策型 2 次基準

施工 第0 -0096号表

1 時間 当り

[illegible]

埋戻し

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0097号表

頁0-0134

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次 山積0. 2 8m3	8.27%	供用日		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次		
タンパ及びランマ〔ランマ〕 質量6 0～8 0 k g	0.60%	供用日		タンパ及びランマ〔ランマ〕		
普通作業員	50.03%	人		普通作業員		
特殊作業員	19.35%	人		特殊作業員		
運転手（特殊）	17.77%	人		運転手（特殊）		
軽油 小型ローリー パトロール給油	3.14%	L		軽油 パトロール給油		

埋戻し

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0097号表

頁0-0135

機械構成比：8.87%

労務構成比：87.15%

材料構成比：3.98%

市場単価構成比：0.00%

標準単価：1

m3

当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.84%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法：上記以外(小規模) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				土質：土砂		

施 工 内 訳 表

頁0-0136

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3（平積0.2）
礫質土

施工 第0 -0098号表

100

m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	133.000	m3			
バックホウ運転（機－1） クローラ型・標準 山積0.28m3 排出ガス対策型2次基準	7.600	時間			施工 第0-0096号表
タンパ締固め	100.000	m3			施工 第0-0081号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m3			
*** 単位当り ***	1	m3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3（平積0.2m3） 土質区分：レキ質土 バックホウ機種：排出ガス対策型2次基準			埋戻土単価（円／m3）： 土量の変化率：ほぐした土量／締固め後の土量（L／C） 豪雪割増（バックホウ）：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工 第0 -0099号表

頁0-0137

埋戻し
洗淨砂

100 m3 当り

[illegible]

埋戻し

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0100号表

頁0-0138

機械構成比： 8.87% 労務構成比： 87.15% 材料構成比： 3.98% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m3 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次 山積0. 2 8m3	8.27%	供用日		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回〕 排ガス2次		
タンパ及びランマ〔ランマ〕 質量6 0～8 0 k g	0.60%	供用日		タンパ及びランマ〔ランマ〕		
普通作業員	50.03%	人		普通作業員		
特殊作業員	19.35%	人		特殊作業員		
運転手（特殊）	17.77%	人		運転手（特殊）		
軽油 小型ローリー パトロール給油	3.14%	L		軽油 パトロール給油		

埋戻し

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0100号表

機械構成比：8.87%

労務構成比：87.15%

材料構成比：3.98%

市場単価構成比：0.00%

標準単価：1

m3

当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ガソリン レギュラー スタンド	0.84%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法：上記以外(小規模) 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				土質：土砂		

機械投入埋戻工 BH山積0.28m3（平積0.2）
砂

施 工 内 訳 表

施工 第0 -0101号表

頁0-0140

100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	2.500	人			
普通作業員	3.800	人			
埋戻土	126.000	m 3			
バックホウ運転（機－１） クローラ型・標準 山積0. 2 8 m 3 排出ガス対策型２次基準	7.600	時間			施工 第0-0096号表
タンパ締固め	100.000	m 3			施工 第0-0081号表
諸雑費	1	式			
*** 合 計 ***	100	m 3			
*** 単位当り ***	1	m 3			
バックホウ規格：バックホウ投入 山積0.28m3（平積0.2m3） 土質区分：砂 バックホウ機種：排出ガス対策型２次基準			埋戻土単価（円／m3）： 土量の変化率：ほぐした土量／締固め後の土量（L／C） 豪雪割増（バックホウ）：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0141

舗装版切断
アスファルト舗装版

施工 第0 -0102号表

機械構成比： 15.05% 労務構成比： 15cm以下 58.43%

材料構成比： 26.52%

市場単価構成比： 0.00%

1 m 当り 標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音 切削深20cm級 B径56cm	10.24%	供用日		コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		
特殊作業員	19.96%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	10.88%	人		土木一般世話役		
普通作業員	8.92%	人		普通作業員		
ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)	22.39%	枚		ブレード (コンクリートカッタ) 径18インチ (45cm)		
ガソリン レギュラー スタンド	2.81%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施 工 内 訳 表

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比：

15.05%

労務構成比：

15cm以下
58.43%

材料構成比：

26.52%

市場単価構成比：

施工 第0 -0102号表

0.00%

1
標準単価：

m 当り

代 表 機 労 材 規 格	構 成 比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単 価(東京地区)	備 考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				アスファルト舗装版厚：15cm以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0143

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比：

12.85%

労務構成比：

障害等なし

81.24%

材料構成比：

5.91%

市場単価構成比：

施工 第0 -0103号表

0.00%

1
標準単価：

m2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～超低・～排ガス3次 山積0.45m3	12.85%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
土木一般世話役	29.54%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	27.52%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	24.18%	人		普通作業員		
軽油 小型ローリー パトロール給油	5.91%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

施 工 内 訳 表

頁0-0144

舗装版破碎

アスファルト舗装版

機械構成比：

12.85%

労務構成比：

障害等なし

81.24%

材料構成比：

5.91%

市場単価構成比：

0.00%

施工 第0 -0103号表

標準単価：

1 m2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構 成 比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単 価(東京地区)	備 考
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 騒音振動対策：騒音振動対策不要 積込作業の有無：積込作業あり				障害等の有無：障害等なし 舗装版厚：15cm以下 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施 工 内 訳 表

頁0-0145

殻運搬

施工 第0 -0104号表

舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下

機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下)

現場～共和リテック9.8km

1

m3 当り

機械構成比： 44.05% 労務構成比：

39.87%

材料構成比： 16.08%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	44.05%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	39.87%	人		運転手 (一般)		
軽油 小型ローリー パトロール給油	16.08%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業：舗装版破碎 DID区間の有無：DID区間なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分：機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 運搬距離：11.5km以下		

施 工 内 訳 表

頁0-0146

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 3 0 mm

施工 第0 -0105号表

1 m2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式] 運転質量 0. 5 ～ 0. 6 t	0.24%	供用日		振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式]		
振動コンパクタ [前進型] 機械質量 4 0 ～ 6 0 k g	0.13%	供用日		振動コンパクタ [前進型]		
特殊作業員	19.57%	人		特殊作業員		
普通作業員	14.05%	人		普通作業員		
土木一般世話役	4.28%	人		土木一般世話役		
⑤再生アスファルト混合物 密粒度（1 3 F） [再生材 混入率50%以下]	50.52%	t		アスファルト混合物 密粒度（2 0）		

施 工 内 訳 表

頁0-0147

表層（車道・路肩部）

1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)

平均仕上り厚 3 0 mm

施工 第0 -0105号表

1

m2 当り

機械構成比： 0.43%

労務構成比： 44.34%

材料構成比： 55.23%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	4.48%	L		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		
ガソリン レギュラー スタンド	0.17%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
軽油 小型ローリー パトロール給油	0.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
平均幅員：1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) 標準締固め後密度：2.35t/m3 材料：再生 密粒度（1 3 F） アスファルト混合物小型車割増：小型車割増なし 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				1層当り平均仕上り厚(mm)：30 瀝青材料種類：プライムコート 瀝青材料種類：プライムコート PK-3 アスファルト混合物夜間割増：夜間割増なし		

施 工 内 訳 表

頁0-0148

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0106号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 1 0 mm

1 m2 当り

機械構成比： 11.57%

労務構成比： 37.08%

材料構成比： 51.35%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ [土工用] 排ガス 2 0 1 4 ブレード幅 3. 1 m	7.99%	供用日		モータグレーダ [土工用] 排ガス 2 0 1 4		
ロードローラ [マカダム] 賃料 ～超低・～排ガス 2 次 質量 1 0 ～ 1 2 t	1.00%	日		ロードローラ [マカダム] 賃料		
タイヤローラ賃料 質量 1 3 ～ 1 4 t	0.99%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	16.31%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	5.97%	人		普通作業員		
特殊作業員	5.32%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0149

上層路盤（車道・路肩部）

施工 第0 -0106号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 1 1 0 mm

1

m 2 当り

機械構成比： 11.57%

労務構成比：

37.08%

材料構成比：

51.35%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	4.37%	人		土木一般世話役		
粒調碎石 2 5 mm以下	47.84%	m 3		再生粒度調整碎石 RM－ 4 0		
軽油 小型ローリー パトロール給油	3.03%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
材料：粒度調整碎石 施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				全仕上り厚(mm)：110 材料(粒度調整碎石)：粒度調整碎石 M－ 2 5		

施 工 内 訳 表

頁0-0150

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚200mm

機械構成比： 5.72% 労務構成比：

1層施工

18.33% 材料構成比： 75.95%

市場単価構成比： 0.00%

施工 第0 -0107号表

1
標準単価：

m2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
モータグレーダ [土工用] 排ガス2014 ブレード幅3.1m	3.95%	供用日		モータグレーダ [土工用] 排ガス2014		
ロードローラ [マカダム] 賃料 ～超低・～排ガス2次 質量10～12t	0.49%	日		ロードローラ [マカダム] 賃料		
タイヤローラ賃料 質量13～14t	0.49%	日		タイヤローラ賃料		
運転手（特殊）	8.06%	人		運転手（特殊）		
普通作業員	2.95%	人		普通作業員		
特殊作業員	2.63%	人		特殊作業員		

施 工 内 訳 表

頁0-0151

下層路盤（車道・路肩部）

全仕上り厚 2 0 0 mm

機械構成比： 5.72%

労務構成比：

1層施工

18.33%

材料構成比：

75.95%

市場単価構成比：

施工 第0 -0107号表

0.00%

1
標準単価：

m 2 当り

代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代 表 機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
土木一般世話役	2.16%	人		土木一般世話役		
再生クラッシャーラン 4 0 mm以下	74.21%	m 3		クラッシャーラン C - 4 0		
軽油 小型ローリー パトロール給油	1.50%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
全仕上り厚(mm)：200 材料：再生クラッシャーラン RC - 4 0				施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

交通誘導警備員 B

頁0-0152

施工 第0 -0108号表

1 人・日 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0153

仮設材等の運搬
製品長 1.2m以内

運搬距離 8.4 km (搬入)

ライナープレート

施工 第0 -0109号表

1	t	当り
---	---	----

[illegible]

施工内訳表

頁0-0154

**仮設材等の運搬
製品長12m以内**

運搬距離 8.4 km (搬出)

ライナープレート

施工 第0 -0110号表

1 t 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0155

**仮設材等の積込み，取卸し費
基地積込み，現場取卸し（片道分）**

施工 第0 -0111号表

ライナープレート

1 t 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0156

**仮設材等の積込み，取卸し費
現場積込み，基地取卸し（片道分）**

施工 第0 -0112号表

ライナープレート

1 t 当り

[illegible]

仮設材等の運搬
製品長 1.2m以内

頁0-0157

施工 第0 -0113号表

1 t 当り

運搬距離 8.4 km (×往復)

建达簡易土留

[illegible]

施工内訳表

頁0-0158

**仮設材等の積込み、取卸し費
積込み、取卸し（往復分）**

施工 第0 -0114号表

建込簡易土留

1 t 当り

[illegible]

施工内訳表

頁0-0159

通水試験工

既設管と連絡せず給水車で注水

$$\underline{84m+3m}$$

施工 第0 -0115号表

1000

m

当り

[illegible]

給水車運転工（4 t）

頁0-0160

施工 第0 -0116号表

1 目 当 り

[illegible]

令和4年度(債務負担行為)下水道施設統廃合事業
接続管路実施設計業務委託

数量計算書
(明科2-2工区)

令和6年3月

安曇野市下水道課

1. 材料・労務（圧送管）

压送管 DIP-GX $\phi 200$ 材料 1/2

[illegible]

压送管 DIP-GX $\phi 200$ 材料 2/2

[illegible]

圧送管 DIP-GX ϕ 200 切管調書

[illegible]

圧送管 DIP-GX $\phi 75$ 切管調書

[illegible]

圧送管 DIP-GX φ 200 労務

名 称	形 状 寸 法	単 位	数 量	備 考
鋳鉄管据付工	吊込据付(機械) φ 200	m	83.5	実延長-仕切弁 83.97m-(0.26m×2)
鋳鉄管切断工	エンジンカッター φ 200	口	16	
GX形継手工(直管部)	GX継手(直管部) φ 200	口	18	
GX形継手工(異形管)	GX継手(異形管) φ 200	口	8	
GX形継手工(G-Link)	GX継手(G-Link) φ 200	口	18	
仕切弁設置工	吊込据付(機械) φ 200	基	2	
仕切弁筐設置工	DP=1.00用	箇所	1	
仕切弁筐設置工	DP=1.77用	箇所	1	
ポリエチレンスリーブ工	φ 200	m	84.0	実延長
管明示テープ工	DIP φ 200	m	83.5	
埋設シート工		m	64.4	平面延長-仕切弁筐-点検口、排泥弁室 69.98m-(0.54m×2)-(0.91m×5)
通水試験工	φ 800以下 給水車注水	m	84.0	実延長
(立上排泥管設置工)				
鋳鉄管据付工	吊込据付(機械) φ 75	m	8.8	
鋳鉄管切断工	エンジンカッター φ 75	口	1	
GX形継手工(直管部)	GX継手(直管部) φ 75	口	2	
GX形継手工(G-Link)	GX継手(G-Link) φ 75	口	1	
フランジ継手工	φ 75	口	4	
点検口室設置工	DP=1.00m用同等品	箇所	1	
(空気弁設置工)				
鋳鉄管据付工	吊込据付(機械) φ 75	m	1.3	
空気弁設置工	(機械) φ 75	箇所	2	1箇所当り (空気弁+補修弁+フランジ継手工×2口)
フランジ継手工	φ 75	口	2	
空気弁室設置工	DP=1.00m用	箇所	1	
空気弁室設置工	DP=1.74m用	箇所	1	

2. 材料・労務（圧送管排泥）

压送管排泥 $\phi 100$ 材料

[illegible]

圧送管 DIP-GX $\phi 100$ 切管調書

[illegible]

圧送管 DIP-GX $\phi 100$ 切管調書

[illegible]

压送管排泥 $\phi 100$ 劳務

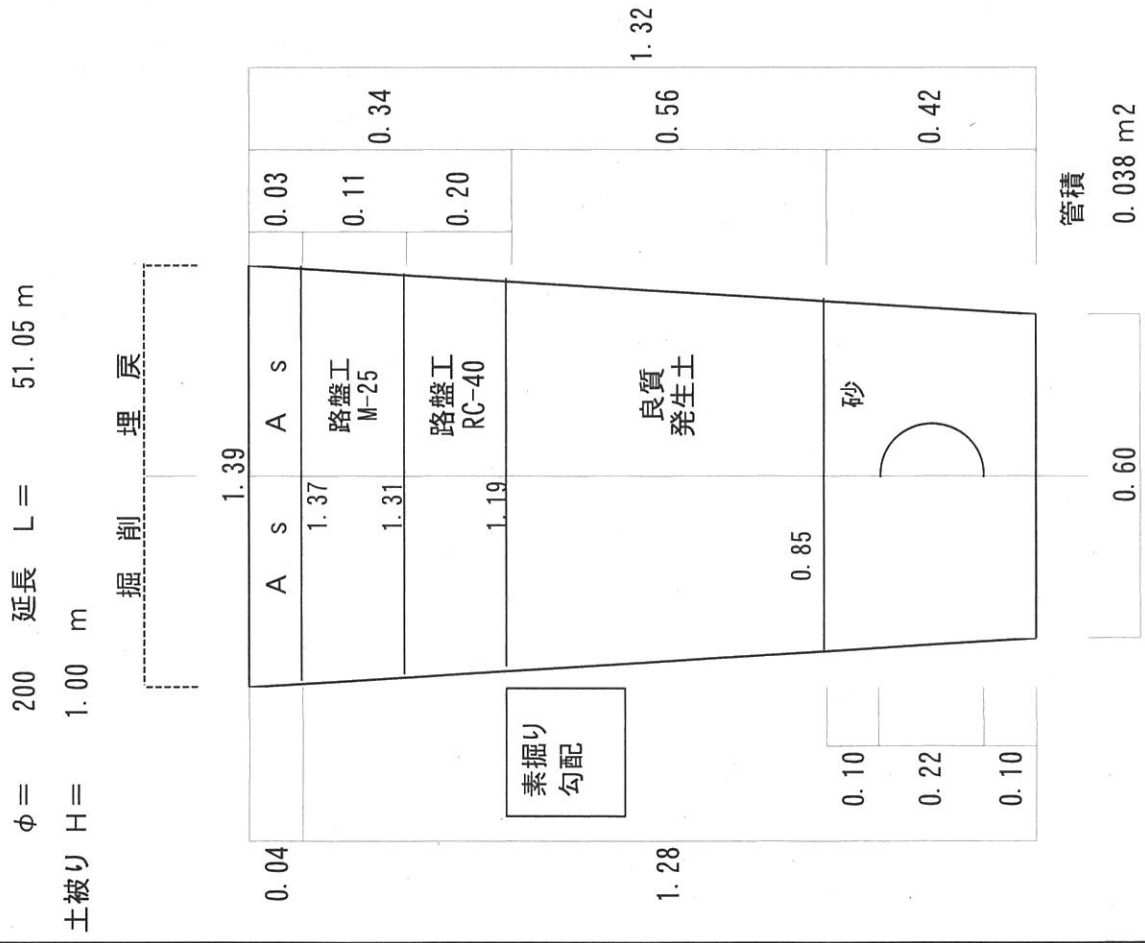
[illegible]

3. 土工事（压送管）

压送管土工延長集計表

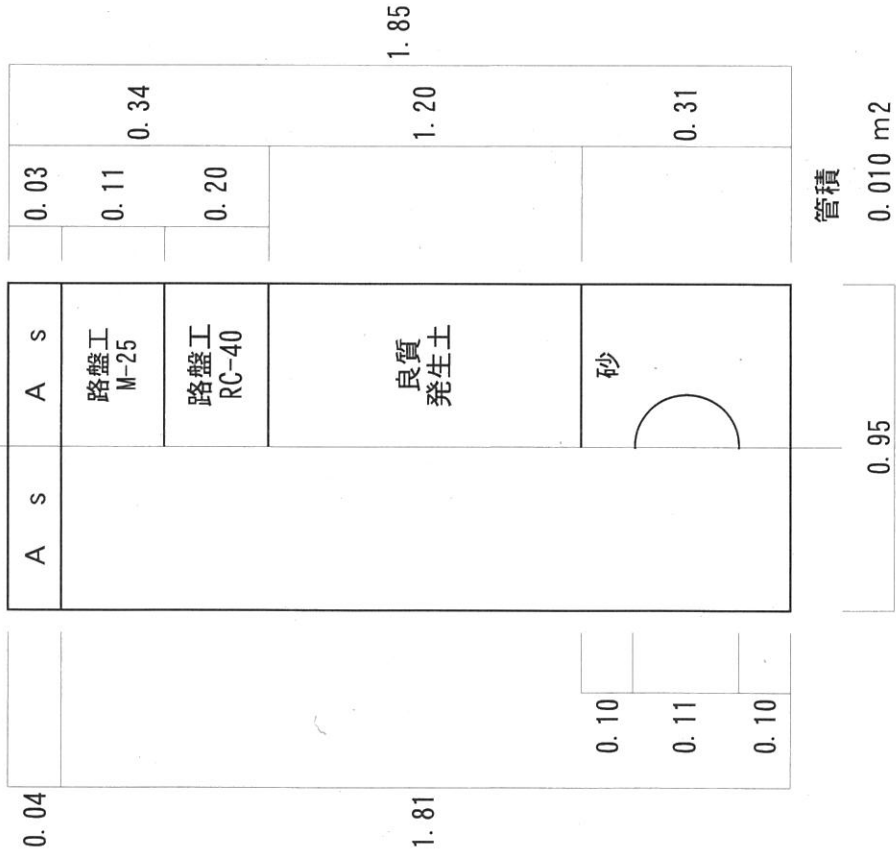
[illegible]

1. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.00m				BH0.2			
φ = 200	延長	L = 51.05 m		舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	51.05 × 2		102.10 m
土被り H = 1.00 m				舗装版破砕工 (As) (t=10cm以下)	1.38 × 51.05		70.45 m ²
				掘削工 (機械)	(1.37 + 0.60) × 1.28 ÷ 2 × 51.05		64.36 m ³
				発生土埋戻し工	1.02 × 0.56 × 51.05		29.16 m ³
				砂埋戻し工	(0.73 × 0.42 - 0.038) × 51.05		13.60 m ³
				下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	1.25 × 51.05		63.81 m ²
				上層路盤工 (M-25 t=11cm)	1.34 × 51.05		68.41 m ²
				舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	1.38 × 51.05		70.45 m ²
				残土処理工 (土砂)	64.36 - 29.16		35.20 m ³
				残土処分費 (土砂)			35.20 m ³
				残土処理工 (As塊)	1.38 × 0.04 × 51.05		2.82 m ³
				建設廃材処分費 (As塊)			2.82 m ³



2. 圧送管DIP-GXφ200 市道車道As DP=1.73m BH0. 2										
φ = 200 延長 L = 17.14 m		掘削		埋戻		舗装切断工 (As) (t=15cm以下)		17.14 × 2	2	34.28 m
土被り H = 1.73 m						舗装版破砕工 (As) (t=10cm以下)		0.95 × 17.14		16.28 m2
						掘削工 (機械)		0.95 × 2.01 × 17.14		32.73 m3
						発生土埋戻し工		0.95 × 1.29 × 17.14		21.01 m3
						砂埋戻工		(0.95 × 0.42 - 0.038) × 17.14		6.19 m3
						下層路盤工 (RC-40 t=20cm)		0.95 × 17.14		16.28 m2
						上層路盤工 (M-25 t=11cm)		0.95 × 17.14		16.28 m2
						舗装工 (再生密粒度As t=3cm)		0.95 × 17.14		16.28 m2
						残土処理工 (土砂)		32.73 - 21.01		11.72 m3
						残土処分費 (土砂)				11.72 m3
						残土処理工 (As塊)		0.95 × 0.04 × 17.14		0.65 m3
						建設廃材処分費 (As塊)				0.65 m3
						土留工		H=2.5m		17.14 m

4. 圧送管排泥HIVP-RRφ100 市道車道As DP=1.64m BH0.2			
φ = 100	延長 L = 19.33 m	舗装切断工 (As) (t=15cm以下)	19.33 × 2
土被り H = 1.64 m		舗装版破碎工 (As) (t=10cm以下)	0.95 × 19.33
		掘削工 (機械)	0.95 × 1.81 × 19.33
		発生土埋戻し工	0.95 × 1.20 × 19.33
		砂埋戻工	(0.95 × 0.31 - 0.010) × 19.33
		下層路盤工 (RC-40 t=20cm)	0.95 × 19.33
		上層路盤工 (M-25 t=11cm)	0.95 × 19.33
		舗装工 (再生密粒度As t=3cm)	0.95 × 19.33
		残土処理工 (土砂)	33.24 - 22.04
		残土処分費 (土砂)	
		残土処理工 (As塊)	0.95 × 0.04 × 19.33
		建設廃材処分費 (As塊)	
		土留工	H=2.0m



4. 立坑工事（推進工事）

[illegible]

名 称	計 算 式	数 量
立坑築造工	$\phi 2500$ 発進 立坑 立坑深さ = 8.96 m	
	先掘面積 A = 3.000 × 3.000 = 9.00 m ²	
	立坑面積 A = $\pi/4$ × 2.500 ² = 4.91 m ²	
1. 土 工		
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35	
	H1 = 4.000 - 0.040 = 3.960 m	
	V1 = 4.91 × 3.960 = 19.44 m ³	
	人力掘削 H ≤ 6.0m	
	H2 = - = m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = m	
	礫質土 H = m	
	V2 = × = m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H > 4.0m	
	H3 = 8.960 - 4.000 = 4.960 m	
	砂質土・粘性土 H = - m	
	礫質土 H = 4.960 m	
	V3 = 4.910 × 4.960 = 24.35 m ³	
2) 埋戻し工	埋戻し工 (立坑掘削分) エアモルタル	
	H1 = - - = m	
	V1 = × - = m ³	m ³
	控除数量 人孔躯体 V = × ² × = m ³	
	Σ V = m ³	
	埋戻し工 購入砂	
	H2 = 8.960 - 0.350 = 8.610 m	
	V2 = 4.91 × 8.610 - 1.44 = 40.84 m ³	40.84 m ³
	控除数量 コンクリート基礎 V = 1.56 × 0.620 × 1.210 = 1.17 m ³	
	本管 V = $\pi/4$ × 0.220 ² × 7.14 = 0.27 m ³	
	排泥管 V = $\pi/4$ × ² × 5.70 = m ³	
	Σ V = 1.44 m ³	
3) 処分工	発生土	
	V = 19.44 + 24.35 = 43.79	43.79 m ³

[illegible]

名 称	計 算 式								数 量
3. 路面覆工									
	1) 覆工板								
	覆工板面積								
	A	=	×		=	m ²		m ²	
	覆工板重量								
	W	=	×	t/m枚	=	t		t	
	2) 桁材重量								
	名 称	部 材	長 さ (m)	本数 (本)	単位重量 (t/m)	重 量 (t)	備考		
	受桁								
	合 計								
	撤去重量 ΣW = t								t
	運搬重量	W	=	+	=	t		t	
4. 舗装工	1) 舗装切断工 As t=15cm以下								
	L	=	3.00	×	4	=	12.00 m	12.00 m	
	2) 舗装破碎工 As t=15cm以下								
	A	=	3.00	×	3.00	=	9.00 m ²	9.00 m ²	
	3) 処分工 Asガラ（無筋）								
	V	=	9.00	×	0.04	=	0.36 m ³	0.36 m ³	
	4) 舗装仮復旧工								
	① 表層工 As t=3cm 蓋控除								
	A	=	9.00	−		=	9.00 m ²	9.00 m ²	
	② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm 蓋控除								
	A	=	9.00	−		=	9.00 m ²	9.00 m ²	

名 称	計 算 式	数 量
立坑築造工	$\phi 1500$ 到達 立坑 立坑深さ = 9.65 m	
	先掘面積 A = 2.000 × 2.000 = 4.00 m ²	
	立坑面積 A = $\pi/4$ × 1.500 ² = 1.77 m ²	
1. 土 工		
1) 掘削工	機械掘削 BH0.35	
	H1 = - = m	
	V1 = × = m ³	
	人力掘削 (6m以上の掘削につき土木工事積算基準を使用)	
	H2 = 9.650 - 0.040 = 9.610 m	
	t=2.7mm 砂質土・粘性土 H = - m	
	礫質土 H = 9.610 m	
	V2 = 1.77 × 9.610 = 17.01 m ³	
	クラムシェル掘削 BH 0.40m ³ (平積) H>4.0m	
	H3 = - = m	
	砂質土・粘性土 H = - m	
	礫質土 H = m	
	V3 = × = m ³	
2) 埋戻し工	埋戻し工 (立坑掘削分) エアモルタル	
	H1 = - - = m	
	V1 = × - = m ³	m ³
	控除数量 人孔躯体 V = × ² × = m ³	
	ΣV = m ³	
	埋戻し工 購入砂	
	H2 = 9.650 - 0.350 = 9.300 m	
	V2 = 1.77 × 9.300 - 1.06 = 15.40 m ³	15.40 m ³
	控除数量 コンクリート基礎 V = 1.5 × 0.620 × 0.750 = 0.70 m ³	
	本管 V = $\pi/4$ × 0.220 ² × 8.19 = 0.31 m ³	
	排泥管 V = $\pi/4$ × 0.089 ² × 8.52 = 0.05 m ³	
	ΣV = 1.06 m ³	
3) 処分工	発生土	
	V = 17.01 = 17.01	17.01 m ³

[illegible]

名 称	計 算 式										数 量
3. 路面覆工											
	1) 覆工板										
	覆工板面積										
	A	=	×			=	m ²		m ²		
	覆工板重量										
	W	=	×	t/m枚		=	t		t		
	2) 桁材重量										
		名 称	部 材	長 さ (m)	本数 (本)	単位重量 (t/m)	重 量 (t)	備考			
		受桁									
		合 計									
	撤去重量 Σ W = t										t
	運搬重量 W = + = t										t
4. 舗装工	1) 舗装切断工 As t=15cm以下										
	L	=	2.00	×	4		=	8.00 m	8.00 m		
	2) 舗装破碎工 As t=15cm以下										
	A	=	2.00	×	2.00		=	4.00 m ²	4.00 m ²		
	3) 処分工 Asガラ（無筋）										
	V	=	4.00	×	0.04		=	0.16 m ³	0.16 m ³		
	4) 舗装仮復旧工										
	① 表層工 As t=4cm										
	A	=	4.00	-	蓋控除		=	4.00 m ²	4.00 m ²		
	② 路盤工 RC-40 t=20cm M-25 t=11cm										
	A	=	4.00	-	蓋控除		=	4.00 m ²	4.00 m ²		

薬液注入工（二重管ストレーナ工法、複相式）数量計算書

施 工 場 所			単位	発進立坑 φ2500 側部	到達立坑 φ1500 側部				小 計
注 入 面 積			m ²	18.850	14.137				32.987
削孔長	砂 礫 土		m	4.639	4.639				9.278
	砂 質 土		m						
	粘 性 土		m						
	削 孔 長 計		m	4.639	4.639				9.278
注 入 長	砂 礫 土	10～50	m	1.439	1.439				2.878
		50以上	m						
	砂 質 土	0～10	m						
		10～30	m						
		30以上	m						
	粘 性 土	0～4	m						
		4～8	m						
注 入 長 計		m	1.439	1.439				2.878	
引 抜 き 長			m	3.200	3.200				6.400
注 入 量 (注 入 率)	砂 礫 土	10～50	kl	9.763	7.322				17.086
		50以上	kl						
	砂 質 土	0～10	kl						
		10～30	kl						
		30以上	kl						
	粘 性 土	0～4	kl						
		4～8	kl						
注 入 量 計		kl	9.763	7.322				17.086	
注 入 量 (比 率)	砂礫土:10～50以上	瞬結材	kl	6.509	4.882				11.391
	砂礫土:50以上		kl						
	砂質土:0～10		kl						
	砂質土:10～30		kl						
	砂質土:30以上		kl						
	粘性土:0～4		kl						
	粘性土:4～8		kl						
	注 入 量(瞬結材)計		kl	6.509	4.882				11.391
	砂礫土:10～50以上	緩結材	kl	3.254	2.440				5.695
	砂礫土:50以上		kl						
	砂質土:0～10		kl						
	砂質土:10～30		kl						
	砂質土:30以上		kl						
	粘性土:0～4		kl						
粘性土:4～8	kl								
注 入 量(緩結材)計		kl	3.254	2.440				5.695	
注 入 本 数			本	19	15				34
1本当り注入量	瞬結材	ℓ	343	325					
	緩結材	ℓ	171	163					
	計	ℓ	514	488					1002.01
準 備 時 間		14	分	14.00	14.00				28.00
削孔時間	礫 質 土	8分/m	分	37.1	37.1				74.2
	砂 質 土	5分/m	分						
	粘 性 土	4分/m	分						
	削 孔 時 間 計		分	37.10	37.10				74.20
注 入 時 間		16ℓ/min	分	32.12	30.51				62.62
引抜き時間		2分/m	分	6.40	6.40				12.80
1本当り施工時間			分	89.62	88.01				177.62
1箇所当り施工時間			分	1702.70	1320.10				3022.80
1日当り施工本数(2セット)		6.3h/日	本	8.44	8.59				17.03
1日当り施工本数(4セット)		6.3h/日	本	16.90	17.20				34.10

※1.施工本数が100本未満の場合は2セット、100本以上の場合は4セットを標準とする。

2.水ガラス積算流量計は、総注入量500kℓ以上の場合に計上する。

二重管ストレーナ工法注入率表(複相方式)

分類	土質	N 値		間隙率 ρ (%)	注入充填率 α (%)	注入率 (%)
1	砂礫土	ゆるい～中位		40	90	36.0
2		中位～締った		35	90	31.5
3	砂質土	ゆるい～中位		45	90	40.5
4		中位～締った		35	90	31.5
5	粘性土	ゆるい～中位		70	40	28.0
6		中位～締った		60	40	24.0

二重管ストレーナ工法注入比率表(複相方式)

分類	土 質	瞬結材:緩結材 (注入比率)		適 用
1	砂 礫 土	1 : 0.5	0.5	細粒分が少ない場合
2		1 : 1~2	1.5	細粒分が多い場合又は止水を目的とする場合
3	砂 質 土	1 : 1~2	1.5	ゆるい N値 0~10
4		1 : 2~3	2.5	中 位 N値 10~30
5		1 : 3~4	3.5	締った N値 30~
6	粘 性 土	1 : 0	0	目的(止水・地盤強化)により選定する。
7		1 : 1	1.0	

<トラック損料日数> 下水道用設計標準歩掛表(R2年度)ー第1巻 管路ー P.70

$$\begin{aligned}
 \text{日数} &= \text{総注入量} V(\text{k}\ell) \div (1 \text{本当り注入量 } Q_s(\text{k}\ell/\text{本}) \times 1 \text{日当り施工本数}) \times \alpha (\text{供用日の割増率}) \\
 &= 17.086 \div (1,002.010 \times 17.03) \times 1.0 \\
 &= 0.001 \text{ 日}
 \end{aligned}$$

小口径推進工法数量（鋼管φ400）

会田川横断（明科2-2路線）

推 進 工

会田川横断 (明科2-2路線)

推進工集計表

鋼製さや管推進ボーリング式【一重ケーシング 鋼管 φ400mm 内管 φ200mm (ダクタイル 鋳鉄管)

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
路 線 延 長		66.0	m	
管 体 延 長		66.0	m	
推 進 延 長		65.0	m	
推 進 管	200mmDIP L=1.0		本	
	200mmDIP L=1.5	44.0	本	
	400mmSTK L=2.0		本	
	400mmSTK L=1.0	65	本	
	400mmSTK L=0.6		本	
スパーサー			個	さや管推進用リングが兼ねる
本管挿入工	DIP φ 200	65.0	m	
さや管推進用リング	φ 200	45.0	組	
中込注入		5.19	m3	
残 土		8.4	m3	

仮設備工

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
発 進 坑 口 工		1	箇所	
到 達 坑 口 工		1	箇所	
推 進 設 備 工		1	箇所	
鏡 切 り 工		4	箇所	鋼材処分は立坑築造工に計上
	発進 200mmDIP	0.69	m	
	400mmSTK	1.28	m	
	到達 200mmDIP	0.69	m	
	400mmSTK	1.28	m	
立 坑 基 礎 工			箇所	立坑築造工に計上
			m3	立坑築造工に計上

管布設工(空伏工)

項 目	細 目	数 量	単 位	摘 要
管 布 設 延 長	DIP φ 200		m	管布設工に計上
砕 石				
コンクリート				立坑築造工に計上
			m3	
型 枠				立坑築造工に計上
			m ²	
鉄 筋				
	D13 , D16		kg	

推進工計算書

内径 φ 200 mm (鋼管さや管推進 鋼管 φ 400)

立坑番号	土留寸法	人孔	線路延長 m	人孔減長 m	立坑減長 m	立坑減長 m	管体延長 m	管体延長 m	推進延長 m	内装管挿入 m	防護延長 m	管布設工で計 上	200mmDIP 本	400mmSTK 本	スパー 個	中込め注入 m ³	残土 m ³
発進立坑	2.5	無				路線延長 - 人孔減長	路線延長 - 立坑減長	鋼管延長	(立坑サビ 人孔外径/2)				L=1.00	L=1.00	L=0.60	1(0.4064 -0.0095×2) ² -0.2221×π/4 ×鋼管延長	0.4064 ² ×π/4 ×推進延長
到達立坑	1.5	無	66.00			0.700 0.300			1.500 1.500						2m/個		
							66.00	65.00	65.00	65.00	3.060		44.0	65	45.0	5.19	8.4
合 計			66.00				66.00	65.00	65.00	65.00	3.06		44.0	65	45	5.19	8.4

概算工事日数算出表

実日数	71.5	日
供用日数	121.55	日

土留め区間施工日数算出表

名	称	形 状 ・ 寸 法	施工日数	設計数量	計 算 式 1m当り施工量	設計施工日数
配管工			8.7日	86.6m	$8.7日 \div 86.6m =$	$0.100日/m$ 0.100日/m

名	称	形 状 ・ 寸 法	施工日数	設計数量	計 算 式 施工日数	供用日当り
土留め区間	H=2.5m		0.100日/m	17.0m	$0.100日/m \times 17.0m =$ 1.7日 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.5m) より 2.8日 $1.7日 + 2.8日 =$ 4.5日	8日
土留め区間	H=2.0m		0.100日/m	22.0m	$0.100日/m \times 22.0m =$ 2.2日 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m) より 3.2日 $2.2日 + 3.2日 =$ 5.4日	10日
土留めなし区間 (立坑内配管を含む)					$8.7日 - 1.7日 - 2.2日$ 4.8日 土工日数 = ※ 土工事施工日数算出表(土留めなし) より 4.5日 $4.8日 + 4.5日 =$ 9.3日	16日

日当たり施工量一覧表

工 種	数量	単位	日施工量	単位	実日数	摘要
立坑築造工						
ライナー掘削土留め工(人力)	9.61	m	0.50	日/m	5	土木P182
ライナー掘削土留め工(機械) BH0.35m3	3.96	m	0.61	日/m	2	白本P438
ライナー掘削土留め工(機械) CR0.40m3	4.96	m	0.61	日/m	3	白本P438
埋戻し工	56.24	m3	0.01	日/m³	1	
締固め	56.24	m3	0.03	日/m³	2	タンバ日数より
地盤改良工	19	本	0.06	日/本	1	
	15	本	0.06	日/本	1	
舗装工						
舗装切断工	20	m	0.005	日/m	0.09	
舗装粉砕工	13	m2	0.005	日/m²	0.07	
舗装復旧工	13	m2	0.004	日/m²	0	
推進工						
搬入	1	式	1.00	日/式	1.00	
推進設備工	1	式	3.00	日/式	3.00	
先導体据付工	1	式	0.50	日/式	0.50	
推進工	65	m	0.33	日/m	21.67	
先導体撤去工	1	式	0.50	日/式	0.50	
推進機械撤去	1	式	1.50	日/式	1.50	
本管挿入工	65	m	0.05	日/m	3.51	
中込注入工	1	式	2.00	日/式	2.00	
機材搬出工	1	式	3.00	日/式	3.00	
				実日数合計	51.50	
				供用日数	87.55	

配管工事施工日数算出表

No.1

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
铸铁管吊込み据付工 (機械力)	φ250				0.17人	1人 ÷ (0.17人 ÷ 10m) =	58.82	
	φ200		83.5		0.16人	1人 ÷ (0.16人 ÷ 10m) =	62.50	1.34
	φ150	m		10m当り	0.15人	1人 ÷ (0.15人 ÷ 10m) =	66.67	
	φ100		2.6		0.13人	1人 ÷ (0.13人 ÷ 10m) =	76.92	0.03
	φ75		10.1		0.13人	1人 ÷ (0.13人 ÷ 10m) =	76.92	0.13
铸铁管切断工	φ250				0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 1口) =	10.00	
	φ200		16.0		0.09人	1人 ÷ (0.09人 ÷ 1口) =	11.11	1.44
	φ150	口		1口当り	0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ100		1.0		0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	0.06
	φ75		1.0		0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	0.06
铸铁管切断・溝切り工 (2工程)	φ250				0.40人	1人 ÷ (0.40人 ÷ 1口) =	2.50	
	φ200				0.38人	1人 ÷ (0.38人 ÷ 1口) =	2.63	
	φ150	口		1口当り	0.36人	1人 ÷ (0.36人 ÷ 1口) =	2.78	
	φ100				0.34人	1人 ÷ (0.34人 ÷ 1口) =	2.94	
	φ75				0.33人	1人 ÷ (0.33人 ÷ 1口) =	3.03	
铸铁管溝切り加工	φ250				0.280人	1人 ÷ (0.280人 ÷ 1口) =	3.57	
	φ200				0.266人	1人 ÷ (0.266人 ÷ 1口) =	3.76	
	φ150	口		1口当り	0.252人	1人 ÷ (0.252人 ÷ 1口) =	3.97	
	φ100				0.238人	1人 ÷ (0.238人 ÷ 1口) =	4.20	
	φ75				0.231人	1人 ÷ (0.231人 ÷ 1口) =	4.33	
GX継手接合工 (直管受口部)	φ250				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	
	φ200		18.0		0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	1.08
	φ150	口		1口当り	0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	φ100				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	φ75		2.0		0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	0.10
GX継手接合工 (異形管受口部)	φ250				0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ200		8.0		0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	0.56
	φ150	口		1口当り	0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ100		4.0		0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	0.20
	φ75				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
GX継手接合工 (P-Link部)	φ250				0.091人	1人 ÷ (0.091人 ÷ 1口) =	10.99	
	φ200				0.078人	1人 ÷ (0.078人 ÷ 1口) =	12.82	
	φ150	口		1口当り	0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
	φ100				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
	φ75				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
GX継手接合工 (G-Link部)	φ250				0.128人	1人 ÷ (0.128人 ÷ 1口) =	7.81	
	φ200		18.0		0.112人	1人 ÷ (0.112人 ÷ 1口) =	8.93	2.02
	φ150	口		1口当り	0.096人	1人 ÷ (0.096人 ÷ 1口) =	10.42	
	φ100				0.080人	1人 ÷ (0.080人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ75		1.0		0.080人	1人 ÷ (0.080人 ÷ 1口) =	12.50	0.08

配管工事施工日数算出表

No.2

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算		設計施工 日数
						日当り施工量	式 数	
メカニカル継手工 (普通押輪)	φ 250				0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ 200				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	
	φ 150	口			0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 100		2.0		0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	0.10
	φ 75				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
メカニカル継手工 (特殊押輪)	φ 250				0.092人	1人 ÷ (0.092人 ÷ 1口) =	10.87	
	φ 200				0.081人	1人 ÷ (0.081人 ÷ 1口) =	12.35	
	φ 150	口			0.069人	1人 ÷ (0.069人 ÷ 1口) =	14.49	
	φ 100				0.058人	1人 ÷ (0.058人 ÷ 1口) =	17.24	
	φ 75				0.058人	1人 ÷ (0.058人 ÷ 1口) =	17.24	
メカニカル継手工 (離脱防止継手)	φ 250				0.104人	1人 ÷ (0.104人 ÷ 1口) =	9.62	
	φ 200				0.091人	1人 ÷ (0.091人 ÷ 1口) =	10.99	
	φ 150	口			0.078人	1人 ÷ (0.078人 ÷ 1口) =	12.82	
	φ 100				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
	φ 75				0.065人	1人 ÷ (0.065人 ÷ 1口) =	15.38	
硬質塩化ビニル管布設工	φ 200				0.49人	1人 ÷ (0.49人 ÷ 10m) =	20.41	
	φ 150				0.26人	1人 ÷ (0.26人 ÷ 10m) =	38.46	
	φ 100		19.4		0.20人	1人 ÷ (0.20人 ÷ 10m) =	50.00	0.39
	φ 75				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ 50	m			0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ 40				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ 30				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ 25				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	φ 20				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	φ 13				0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 10m) =	100.00	
硬質塩化ビニル管切断工	φ 200				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 150				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 100		2.0		0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	0.04
	φ 75				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 50	口			0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 40				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 30				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 25				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 20				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 13				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
硬質塩化ビニル管継手工 (RR継手)	φ 200				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 150				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ 100	口	5.0		0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	0.25
	φ 75				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
	φ 50				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	

配管工事施工日数算出表

No.3

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
硬質塩化ビニル管継手工 (TS継手)	φ200	口		2口当り	0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 2口) =	28.57	
	φ150				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 2口) =	28.57	
	φ100				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 2口) =	33.33	
	φ75				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	φ50				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	φ40				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 2口) =	66.67	
	φ30				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 2口) =	66.67	
	φ25				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 2口) =	100.00	
	φ20				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 2口) =	100.00	
	φ13				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 2口) =	200.00	
離脱防止金具取付工 (RR継手)	φ200	口		1口当り	0.018人	1人 ÷ (0.018人 ÷ 1口) =	55.56	
	φ150				0.018人	1人 ÷ (0.018人 ÷ 1口) =	55.56	
	φ100				0.015人	1人 ÷ (0.015人 ÷ 1口) =	66.67	
	φ75				0.009人	1人 ÷ (0.009人 ÷ 1口) =	111.11	
	φ50				0.009人	1人 ÷ (0.009人 ÷ 1口) =	111.11	
ポリエチレン管布設工 (融着接合)	φ200	m		10m当り	0.49人	1人 ÷ (0.49人 ÷ 10m) =	20.41	
	φ150				0.26人	1人 ÷ (0.26人 ÷ 10m) =	38.46	
	φ100				0.20人	1人 ÷ (0.20人 ÷ 10m) =	50.00	
	φ75				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ50				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
ポリエチレン管布設工	φ75	m		10m当り	0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ50				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	φ40				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ30				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	φ25				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
ポリエチレン管切断工	φ20	口		1口当り	0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	φ13				0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 10m) =	100.00	
	φ200				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ150				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ100				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ75				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ50				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ40				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ30				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ25				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
ポリエチレン管継手工 (融着接合)	φ20	箇所		1箇所当り	0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ13				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ200				0.13人	1人 ÷ (0.13人 ÷ 1箇所) =	7.69	
	φ150				0.09人	1人 ÷ (0.09人 ÷ 1箇所) =	11.11	
	φ100				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1箇所) =	14.29	

配管工事施工日数算出表

No.4

名 称	形 状・寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
ポリエチレン管継手工 (融着接合)	φ 75	箇所		1箇所当り	0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1箇所) =	20.00	
	φ 50				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1箇所) =	25.00	
ポリエチレン管継手工 (融着接合)	φ 200	口		1口当り	0.091人	1人 ÷ (0.091人 ÷ 1口) =	10.99	
	φ 150				0.063人	1人 ÷ (0.063人 ÷ 1口) =	15.87	
	φ 100				0.049人	1人 ÷ (0.049人 ÷ 1口) =	20.41	
	φ 75				0.035人	1人 ÷ (0.035人 ÷ 1口) =	28.57	
	φ 50				0.028人	1人 ÷ (0.028人 ÷ 1口) =	35.71	
ポリエチレン管継手工	φ 75	口		1口当り	0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	φ 50				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	φ 40				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
	φ 30				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
	φ 25				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 20				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	φ 13				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	φ 200				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
ポリエチレン管メカニカル継手工 (融着接合)	φ 150	口		1口当り	0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	φ 100				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	φ 75				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	φ 50				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	150A				0.35人	1人 ÷ (0.35人 ÷ 10m) =	28.57	
鋼管布設工 (人力)	100A	m		10m当り	0.25人	1人 ÷ (0.25人 ÷ 10m) =	40.00	
	80A				0.23人	1人 ÷ (0.23人 ÷ 10m) =	43.48	
	65A				0.20人	1人 ÷ (0.20人 ÷ 10m) =	50.00	
	50A				0.18人	1人 ÷ (0.18人 ÷ 10m) =	55.56	
	40A				0.16人	1人 ÷ (0.16人 ÷ 10m) =	62.50	
	32A				0.14人	1人 ÷ (0.14人 ÷ 10m) =	71.43	
	25A				0.13人	1人 ÷ (0.13人 ÷ 10m) =	76.92	
	20A				0.12人	1人 ÷ (0.12人 ÷ 10m) =	83.33	
	15A				0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 10m) =	100.00	
	150A				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
鋼管切断工 (人力)	100A	口		1口当り	0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	80A				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	65A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	50A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	40A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	32A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	25A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	20A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	
	15A				0.01人	1人 ÷ (0.01人 ÷ 1口) =	100.00	

配管工事施工日数算出表

No.5

名 称	形 状 ・ 寸 法	単 位	設計数量	単 位	歩掛かり (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
鋼管ねじ切り工 (人力)	150A	口		1口当り	0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	100A				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	80A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	65A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	50A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
	40A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	32A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 1口) =	25.00	
	25A				0.03人	1人 ÷ (0.03人 ÷ 1口) =	33.33	
	20A				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
	15A				0.02人	1人 ÷ (0.02人 ÷ 1口) =	50.00	
鋼管ねじ込み接合工 (人力)	150A	口		2口当り	0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 2口) =	25.00	
	100A				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 2口) =	33.33	
	80A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 2口) =	40.00	
	65A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 2口) =	40.00	
	50A				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 2口) =	40.00	
	40A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	32A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	25A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	20A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
	15A				0.04人	1人 ÷ (0.04人 ÷ 2口) =	50.00	
フランジ継手工 (JWWA 7.5K)	φ250	口		1口当り	0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1口) =	12.50	
	φ200				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	
	φ150				0.07人	1人 ÷ (0.07人 ÷ 1口) =	14.29	
	φ100				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1口) =	16.67	
	φ75(80A)		6.0		0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	0.30
	φ50				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1口) =	20.00	
伸縮可とう管設置工	φ200 F×F	基		1基当り	0.23人	1人 ÷ (0.23人 ÷ 1基) =	4.35	
	φ200 S×S				0.25人	1人 ÷ (0.25人 ÷ 1基) =	4.00	
	φ200 U×U				0.25人	1人 ÷ (0.25人 ÷ 1基) =	4.00	
	φ200 F×S				0.240人	1人 ÷ (0.24人 ÷ 1基) =	4.17	
	φ200 F×U				0.240人	1人 ÷ (0.24人 ÷ 1基) =	4.17	
	φ200 S×U				0.250人	1人 ÷ (0.25人 ÷ 1基) =	4.00	
仕切弁設置工 (機械力)	φ250	基		1基当り	0.10人	1人 ÷ (0.10人 ÷ 1基) =	10.00	
	φ200		2.0		0.08人	1人 ÷ (0.08人 ÷ 1基) =	12.50	0.16
	φ150				0.06人	1人 ÷ (0.06人 ÷ 1基) =	16.67	
	φ100				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1基) =	20.00	
	φ75(80A)				0.05人	1人 ÷ (0.05人 ÷ 1基) =	20.00	
	φ75以下				0.19人	1人 ÷ (0.19人 ÷ 1基) =	5.26	
仕切弁設置工(人力) 空気弁設置工 (機械力)	φ100	基		1基当り	0.11人	1人 ÷ (0.11人 ÷ 1基) =	9.09	
	φ75		2.0		0.11人	1人 ÷ (0.11人 ÷ 1基) =	9.09	0.22
						2.0基 × 0.11人 ÷ 1基	0.220	

土工事施工日数算出表(土留めH=2.5m)

No.1

名 称	形 状 ・ 寸 法	単位	設計数量	単位	歩掛り (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
舗装版切断工	As t=15cm以下		34.0			C= 220.00	34.0m ÷ 220.00m/日 =	0.16
	As t=15cmを越え40cm以下					C= 140.00		
	Co t=15cm以下	m				C= 170.00		
	Co t=15cmを越え30cm以下					C= 70.00		
	Co t=30cmを越え35cm以下					C= 40.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)	As t=10cm以下					Q= 220.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 186.00		
	Co t=10cm以下					Q= 810.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 560.00		
	As t=10cm以下		16.0			Q= 182.00	16.0m2 ÷ 182.00m2/日 =	0.09
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 150.00		
	Co t=10cm以下					Q= 280.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 193.00		
	As t=10cm以下					Q= 155.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 126.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)	Co t=10cm以下					Q= 118.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 81.00		
	As t=10cm以下					Q= 135.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 108.00		
	Co t=10cm以下					Q= 103.00		
床堀工 (機械)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 69.00		
	バックホウ0.35m3					Q= 60.00		
	バックホウ0.20m3	m3	33.0			Q= 43.00	33.0m3 ÷ 43.00m3/日 =	0.77
	バックホウ0.10m3					Q= 32.00		
	バックホウ0.06m3					Q= 20.00		
床堀工(人力)		m3			3.90人	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) =	2.56	
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め			10m3当り	3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.20m3 タンハ締固め	m3	6.0		3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	0.18
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め			100m3当り	3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め				3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
埋戻し工 (機械) 埋戻し用砂	バックホウ0.35m3 タンハ締固め				3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.20m3 タンハ締固め	m3			3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め			100m3当り	3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め				3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め	m3			3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
埋戻し工 (機械) RC-40 発生土	バックホウ0.20m3 タンハ締固め				3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.10m3 タンハ締固め	m3	21.0		3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	0.63
	バックホウ0.06m3 タンハ締固め			100m3当り	3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.35m3 タンハ締固め				3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	
	バックホウ0.20m3 タンハ締固め	m3			3.00日	タンハ締固め 100m3 ÷ 3日 =	33.33	

土工事施工日数算出表(土留めH=2.0m)

No.1

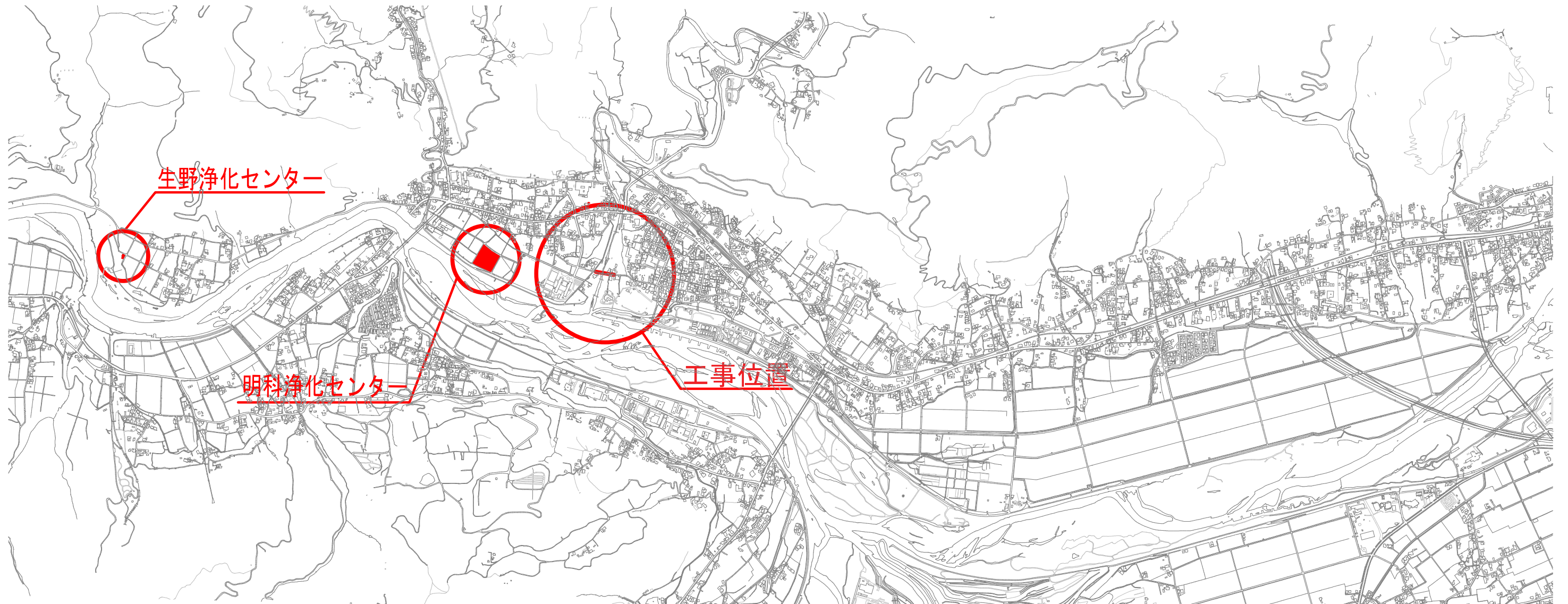
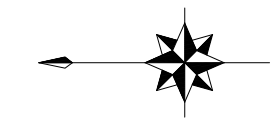
名 称	形 状 ・ 寸 法	単位	設計数量	単位	歩掛り (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
舗装版切断工	As t=15cm以下		43.0			C= 220.00	43.0m ÷ 220.00m/日 =	0.195
	As t=15cmを越え40cm以下					C= 140.00		
	Co t=15cm以下	m				C= 170.00		
	Co t=15cmを越え30cm以下					C= 70.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)	Co t=30cmを越え35cm以下					C= 40.00		
	As t=10cm以下					Q= 220.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 186.00		
	Co t=10cm以下					Q= 810.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 560.00		
	As t=10cm以下		21.0			Q= 182.00	21.0m2 ÷ 182.00m2/日 =	0.115
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 150.00		
	Co t=10cm以下					Q= 280.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 193.00		
	As t=10cm以下					Q= 155.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 126.00		
	Co t=10cm以下					Q= 118.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.06m3)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 81.00		
	As t=10cm以下					Q= 135.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 108.00		
	Co t=10cm以下					Q= 103.00		
床堀工 (機械)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 69.00		
	バックホウ0.35m3	m3	37.0			Q= 60.00		
	バックホウ0.20m3					Q= 43.00	37.0m3 ÷ 43.00m3/日 =	0.860
	バックホウ0.10m3					Q= 32.00		
床堀工(人力)	バックホウ0.06m3	m3				Q= 20.00		
	バックホウ0.35m3 タンハ*締固め			10m3当り	3.90人	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) =		
	バックホウ0.20m3 タンハ*締固め	m3	6.0	100m3当り	3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.10m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =	6.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.180
埋戻し工 (機械)	バックホウ0.06m3 タンハ*締固め	m3			3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.35m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.20m3 タンハ*締固め	m3		100m3当り	3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.10m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
埋戻し工 (機械) RC-40	バックホウ0.06m3 タンハ*締固め	m3			3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.35m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
	バックホウ0.20m3 タンハ*締固め	m3	24.0	100m3当り	3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =	24.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.720
	バックホウ0.10m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		
発生土	バックホウ0.06m3 タンハ*締固め				3.00日	タンハ*締固め 100m3 ÷ 3日 =		

土工事施工日数算出表(土留めなし)

No.1

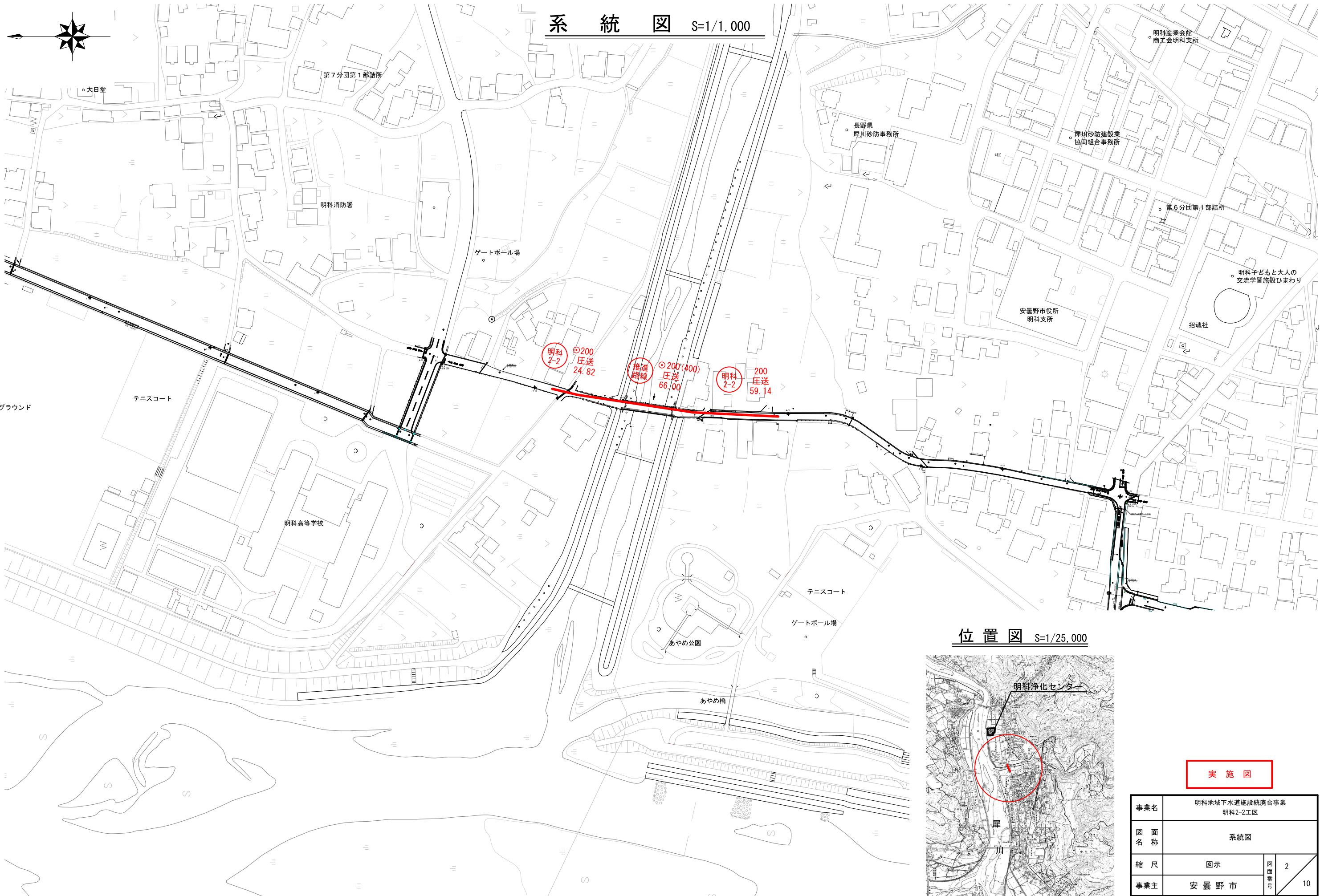
名 称	形 状 ・ 寸 法	単位	設計数量	単位	歩掛り (普通作業員)	計 算 式		設計施工 日数
						日当り施工量	施 工 日 数	
舗装版切断工	As t=15cm以下		102.0			C= 220.00	102.0m ÷ 220.00m/日 =	0.464
	As t=15cmを越え40cm以下					C= 140.00		
	Co t=15cm以下	m				C= 170.00		
	Co t=15cmを越え30cm以下					C= 70.00		
	Co t=30cmを越え35cm以下					C= 40.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.35m3)	As t=10cm以下					Q= 220.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 186.00		
	Co t=10cm以下					Q= 810.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 560.00		
	As t=10cm以下		70.0			Q= 182.00	70.0m2 ÷ 182.00m2/日 =	0.385
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.20m3)	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 150.00		
	Co t=10cm以下					Q= 280.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 193.00		
	As t=10cm以下					Q= 155.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 126.00		
舗装版取壊し工 (バックホウ 0.10m3)	Co t=10cm以下					Q= 118.00		
	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 81.00		
	As t=10cm以下					Q= 135.00		
	As t=10cmを越え15cm以下	m2				Q= 108.00		
	Co t=10cm以下					Q= 103.00		
床堀工 (機械)	Co t=10cmを越え15cm以下					Q= 69.00		
	バックホウ0.35m3	m3	64.0			Q= 60.00		
	バックホウ0.20m3					Q= 43.00	64.0m3 ÷ 43.00m3/日 =	1.488
	バックホウ0.10m3					Q= 32.00		
	バックホウ0.06m3					Q= 20.00		
床堀工(人力)		m3		10m3当り	3.90人	1人 ÷ (3.90人 ÷ 10m3) =	2.56	
	バックホウ0.35m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.20m3 タンハ縮固め	m3	14.0	100m3当り	3.00日	33.33	14.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.420
	バックホウ0.10m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.06m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
埋戻し工 (機械) 埋戻し用砂	バックホウ0.35m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.20m3 タンハ縮固め	m3		100m3当り	3.00日	33.33		
	バックホウ0.10m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.06m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.20m3 タンハ縮固め	m3		100m3当り	3.00日	33.33		
埋戻し工 (機械) RC-40	バックホウ0.10m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.06m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.35m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.20m3 タンハ縮固め	m3	29.0	100m3当り	3.00日	33.33	29.0m3 × 3.00人 ÷ 100m3	0.870
	バックホウ0.10m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
埋戻し工 (機械) 発生土	バックホウ0.06m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.35m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.20m3 タンハ縮固め	m3		100m3当り	3.00日	33.33		
	バックホウ0.10m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		
	バックホウ0.06m3 タンハ縮固め			3.00日		33.33		

位置図 S=1/20,000



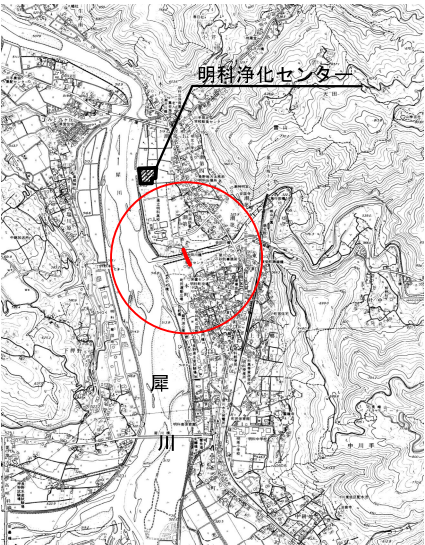
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図面名称	位置図 (明科2-2工区)		
縮尺	図示	図面番号	1
事業主	安曇野市		10



系統図 S=1/1,000

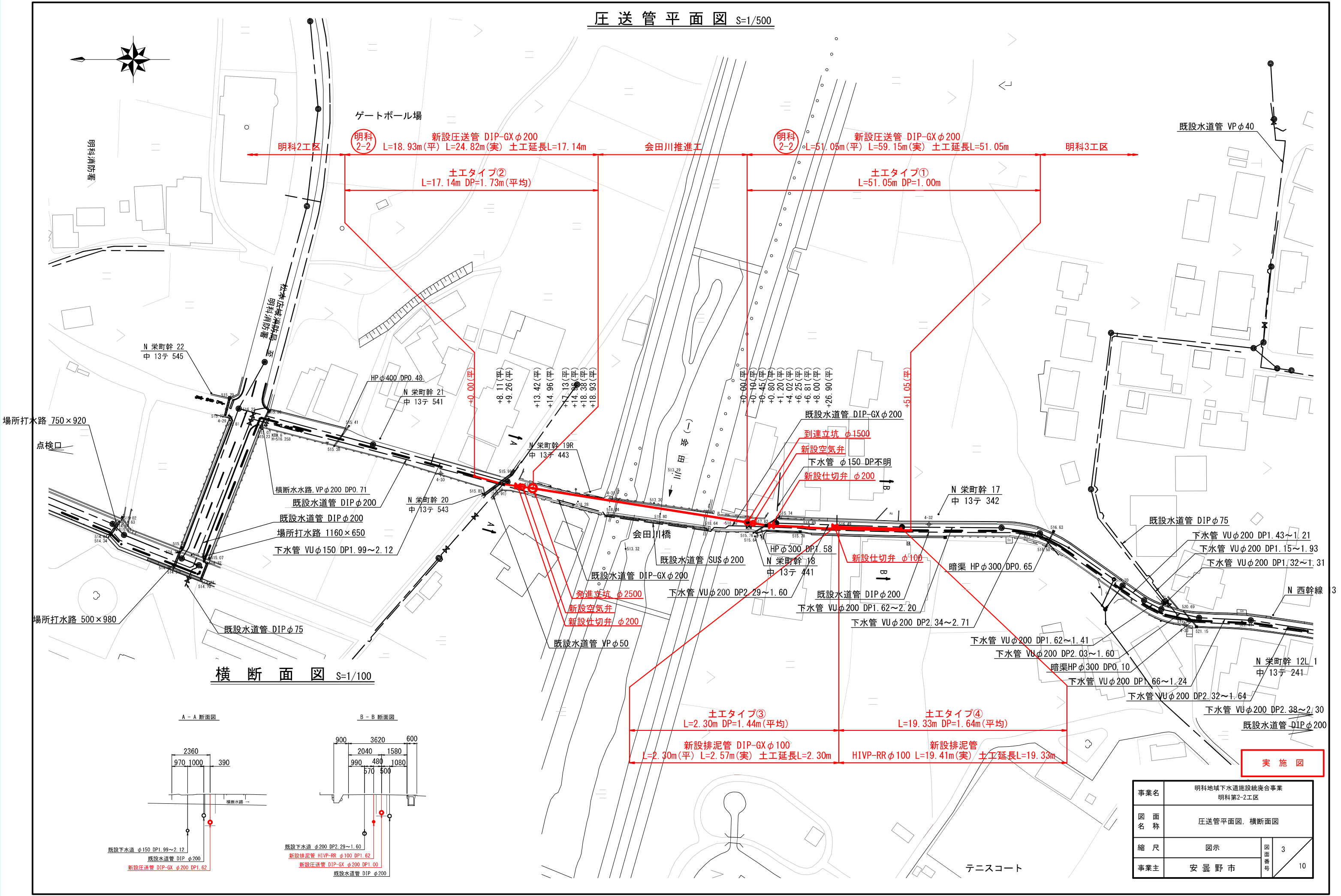
位置図 S=1/25,000



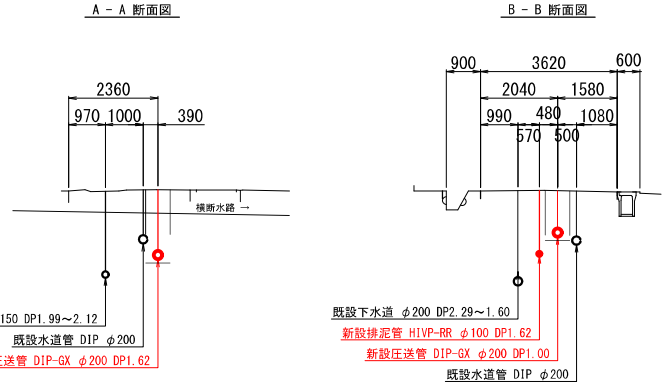
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科2-2工区		
図面称	系統図		
縮尺	図示	図面番号	2
事業主	安曇野市	10	

圧送管平面図 S=1/500

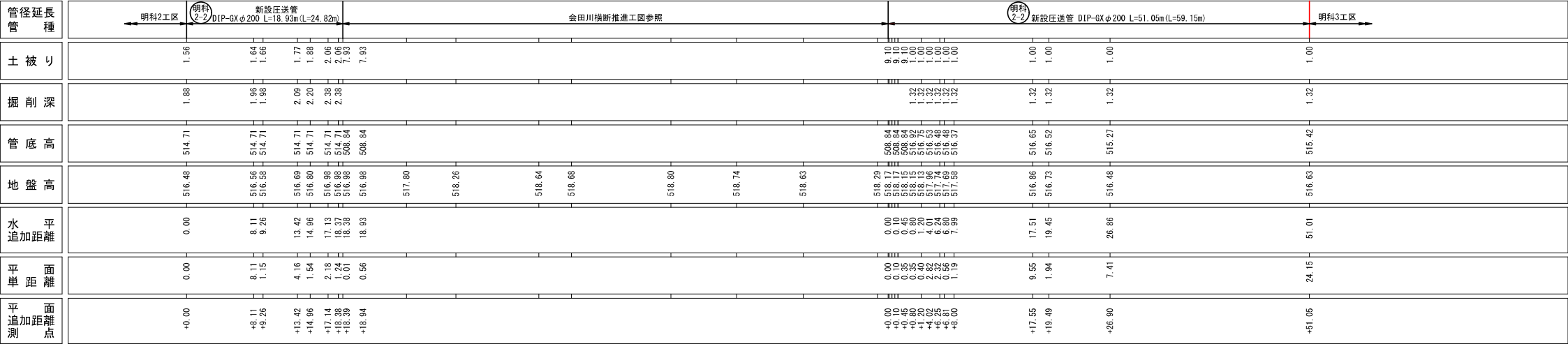


横断面図 S=1/100

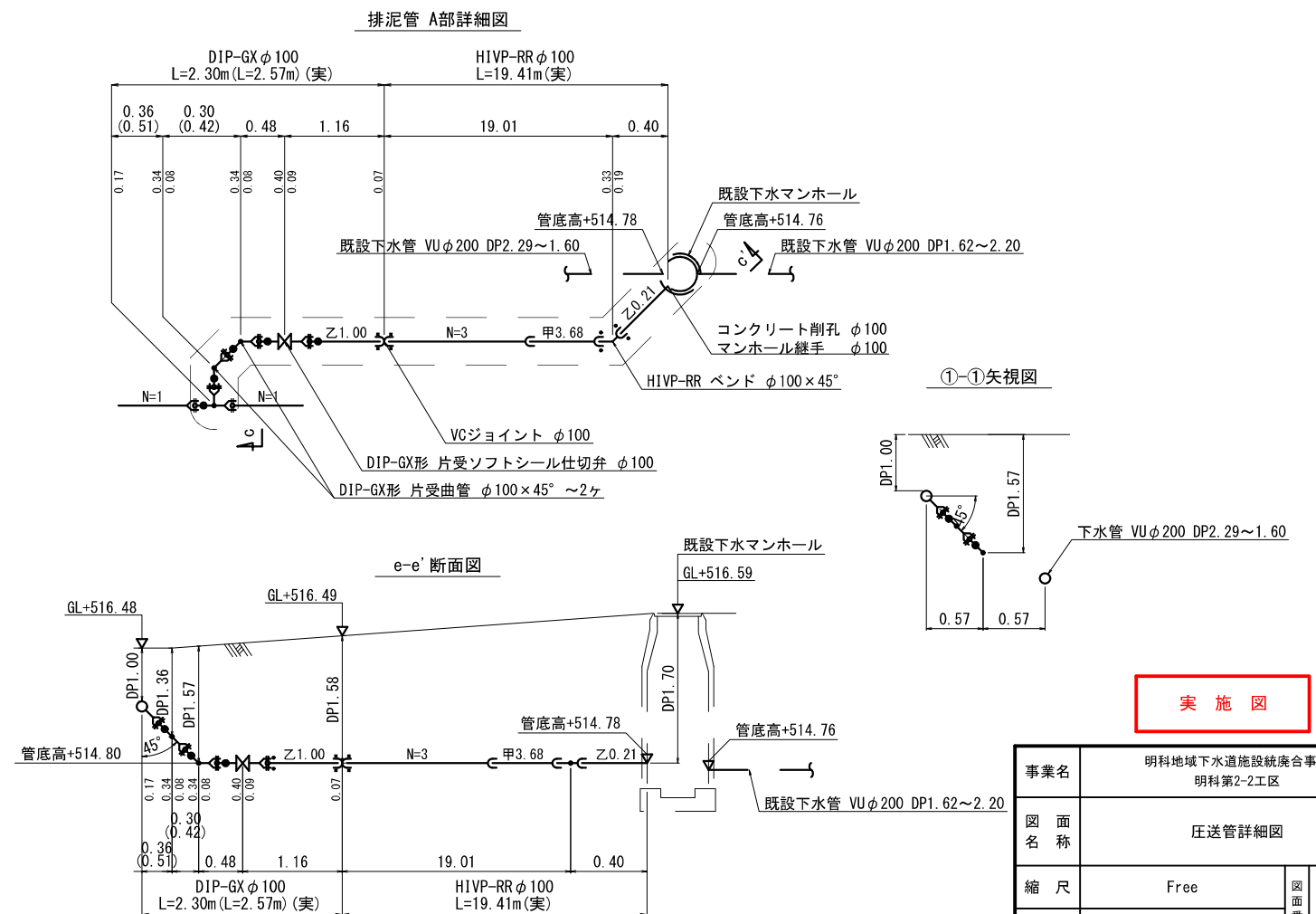
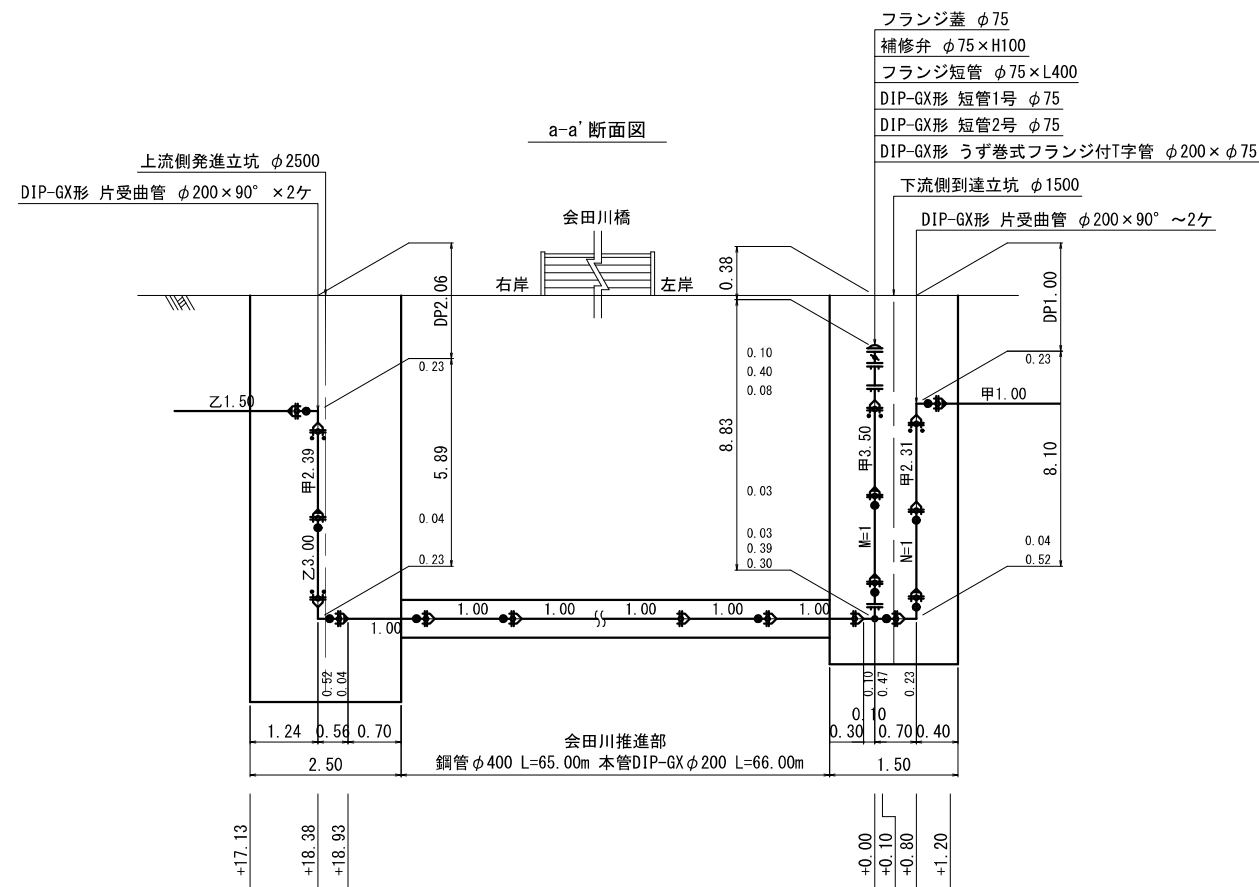
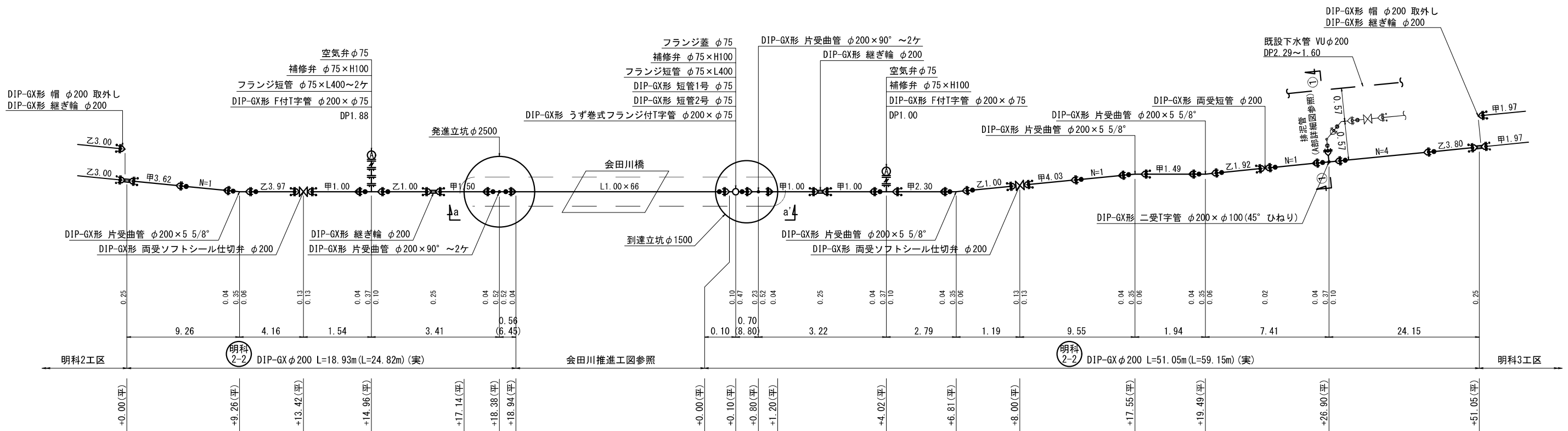


実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図面名称	圧送管平面図, 横断面図		
縮尺	図示	図面番号	3
事業主	安曇野市		10



圧送管詳細図 S=Free

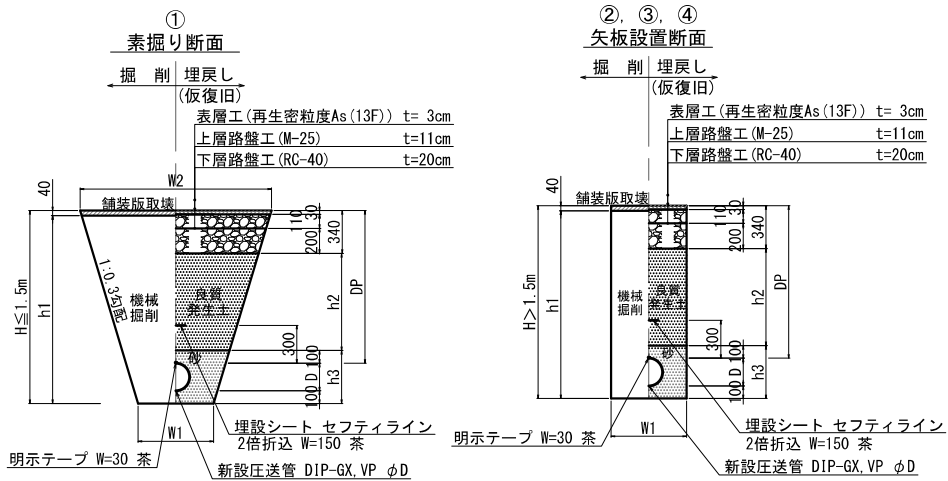


実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図面名称	圧送管詳細図		
縮尺	Free	図面番号	5
事業主	安曇野市		10

圧送管土工定規・舗装復旧工図 S=1/30

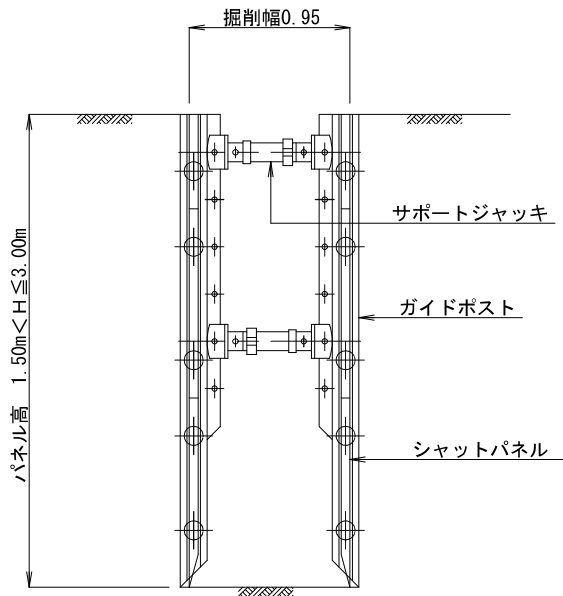
市道車道As舗装道



タイプ	口径(D)	DP	W1	W2	H	h1	h2	h3	土留め	管種
①	φ200(220)	1000	600	1390	1320	1280	560	420	無	DIP-GX
②	φ200(220)	1730	950	—	2050	2010	1290	420	有	DIP-GX
③	φ100(120)	1440	950	—	1660	1620	1000	320	有	DIP-GX
④	φ100(110)	1640	950	—	1850	1810	1200	310	有	VP

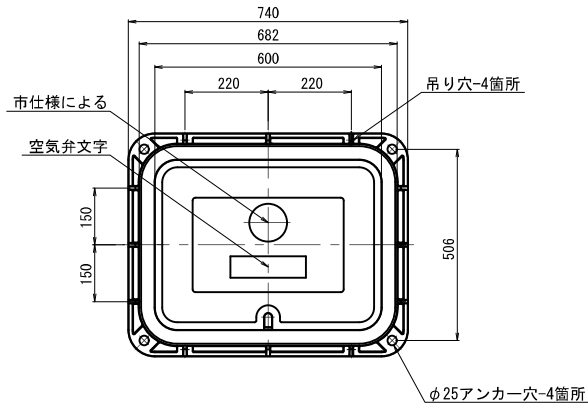
圧送管土留工標準構造図 S=1/20

断面図
(1.50m < H ≤ 3.00m)

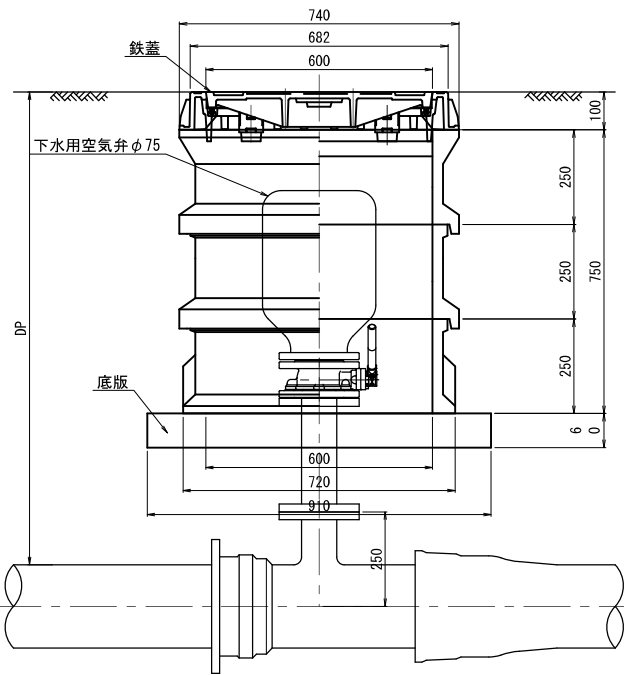


空気弁設置参考図 S=1/10

平面図

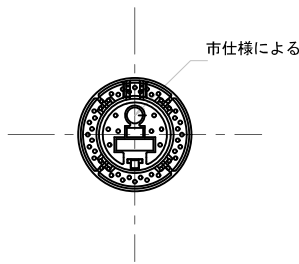


断面図

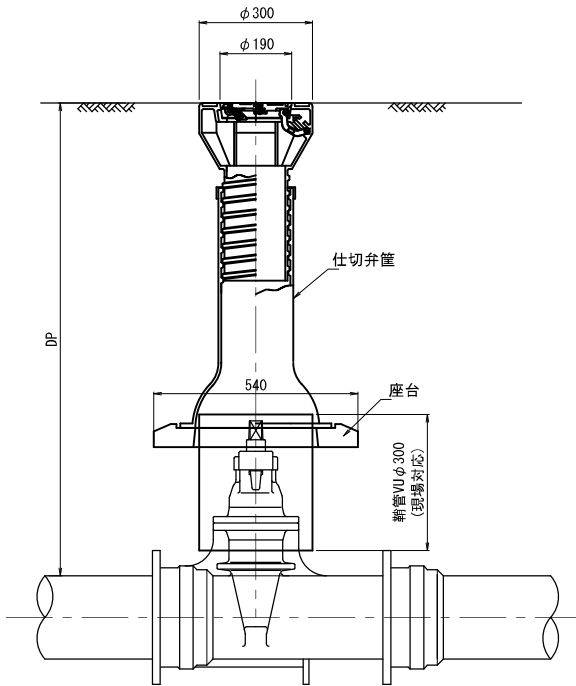


仕切弁筐設置標準図 S=1/10

平面図



断面図

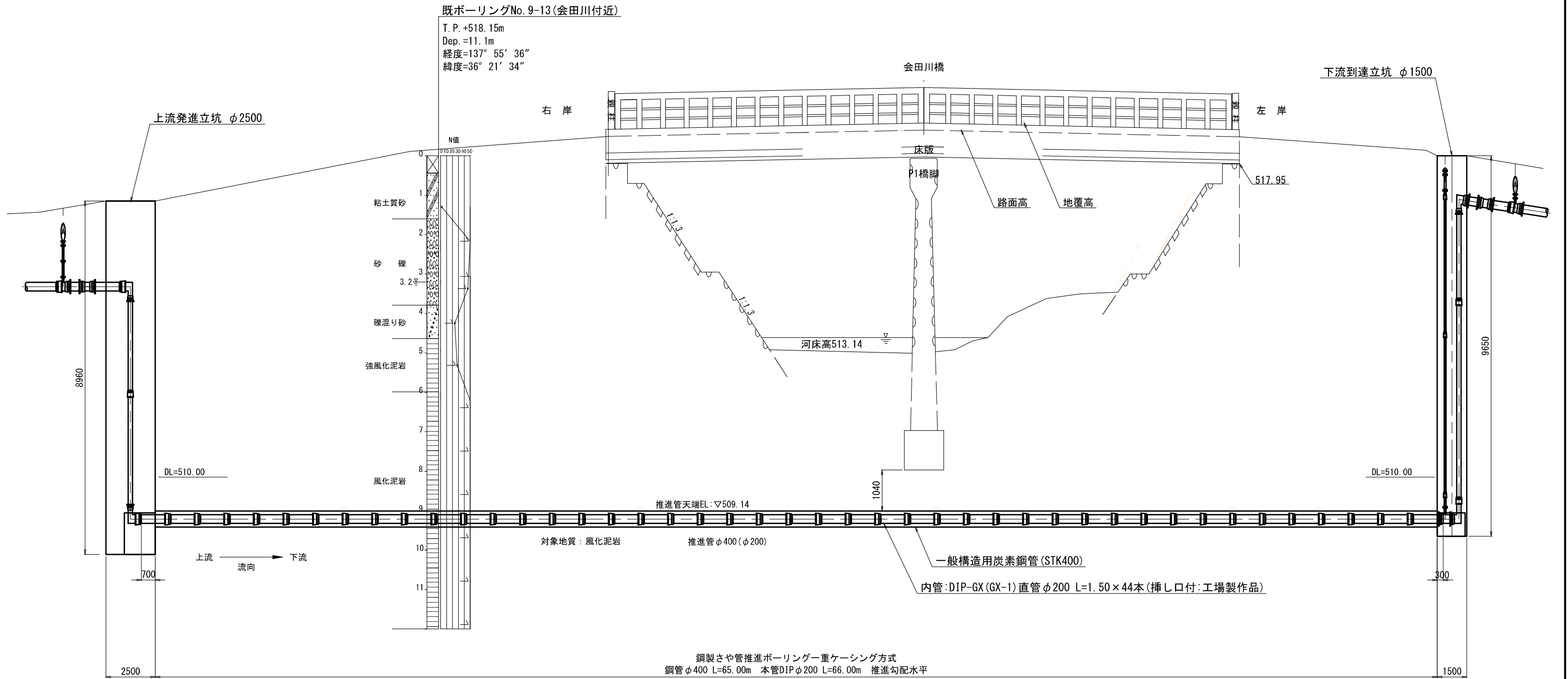


実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図面名称	圧送管土工定規・舗装復旧工図 空気弁設置参考図, 仕切弁筐設置標準図		
縮尺	図示	図面番号	6
事業主	安曇野市	10	

推進横断図

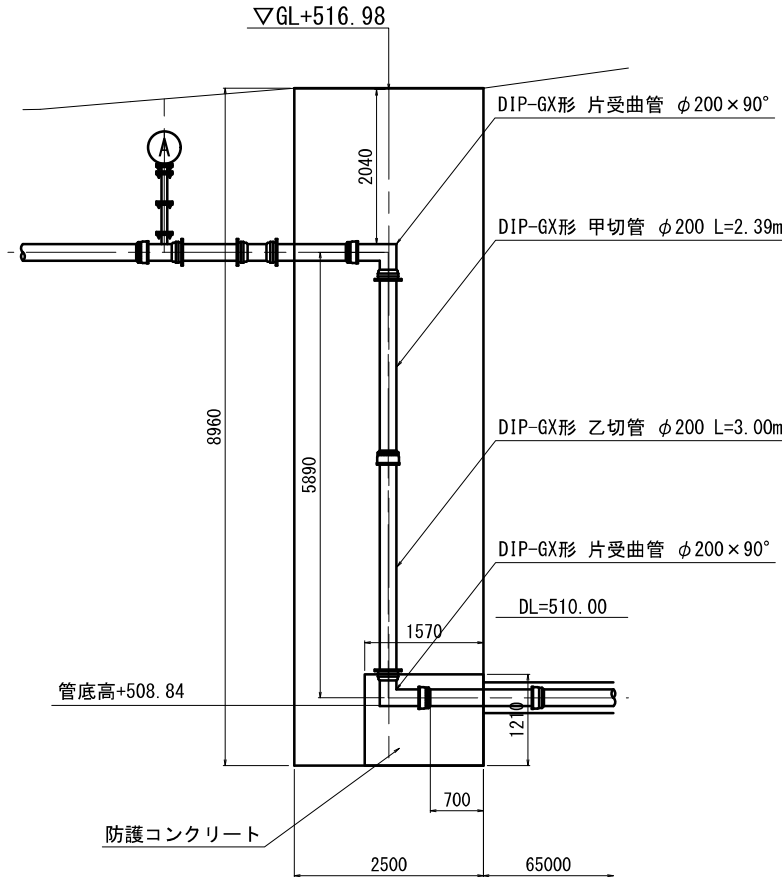
H=1/100
V=1/50



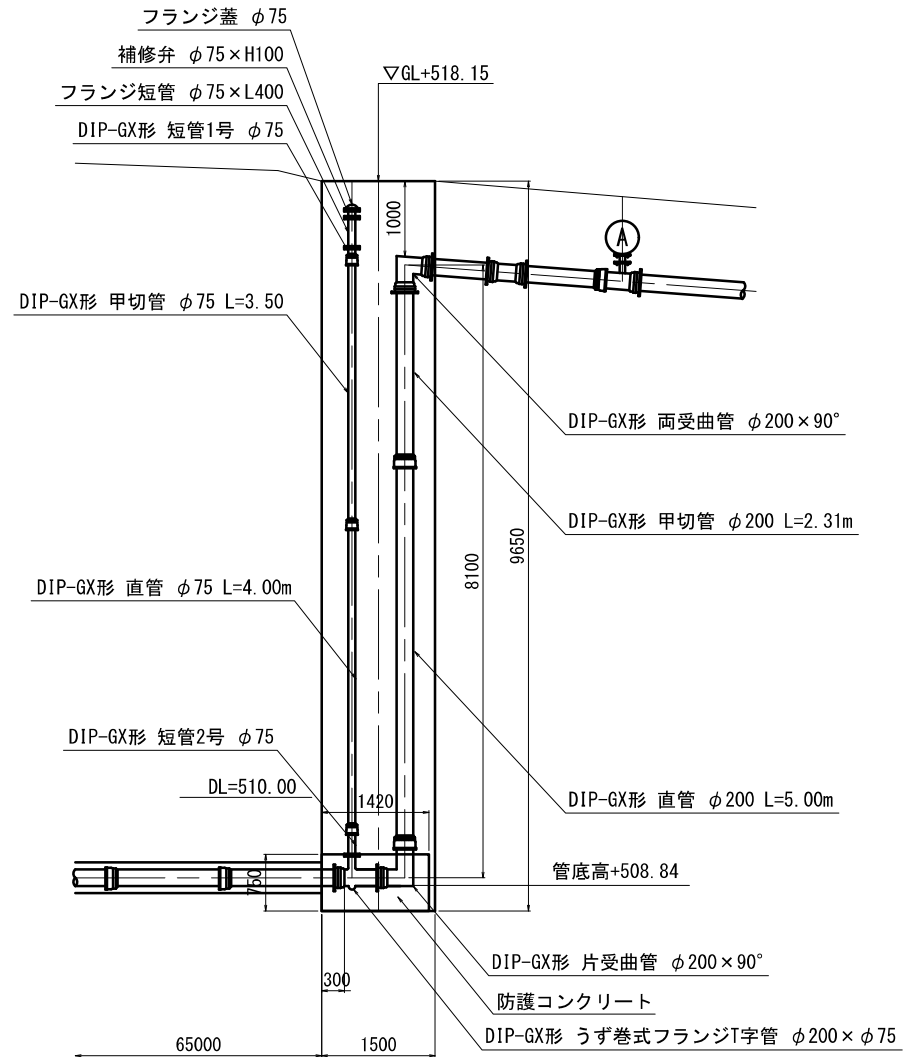
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図名称	推進横断図		
縮尺	図示	図面番号	7
事業主	安曇野市		10

発進立坑詳細図 S=1/50



到達立坑詳細図 S=1/50



实施图

事業名	明科地下下水道施設統合事業 明科第2-2工区		
図面名称	発進・到達立坑詳細図		
縮尺	図示	図面番号	8
事業主	安曇野市		10

推進立坑仮設図 S=1/50

発進立坑 $\phi 2500$



到達立坑 $\phi 1500$

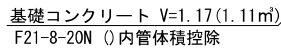


セクション構成図

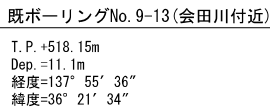
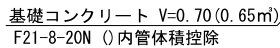


発進立坑

A — A



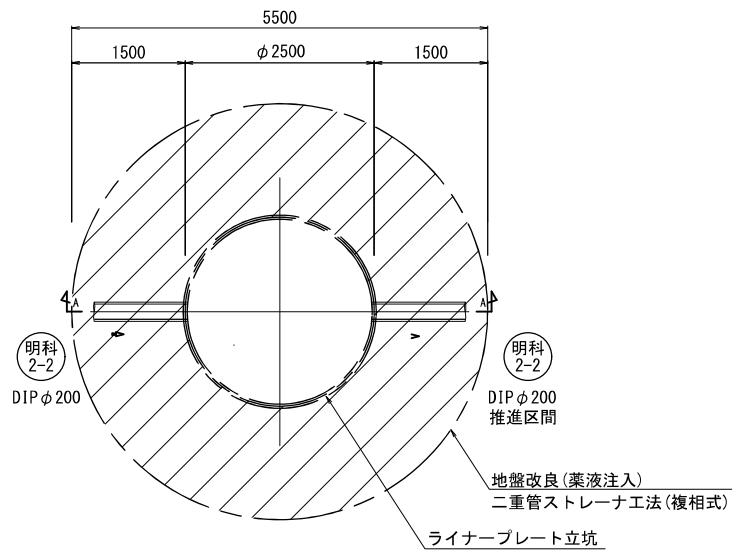
到達立地
B — B



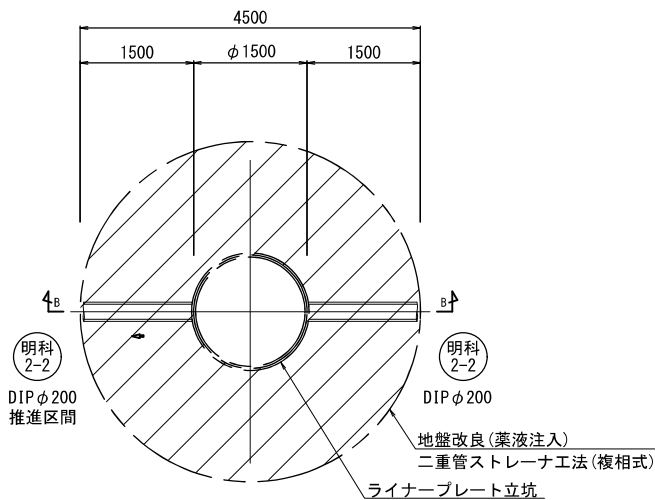
实施区

事業名	明科地域地下水道施設統合事業 明科第2-2工区		
図面 名称	推進立坑仮設図		
縮尺	図示	図面 番号	9
事業主	安曇野市		10

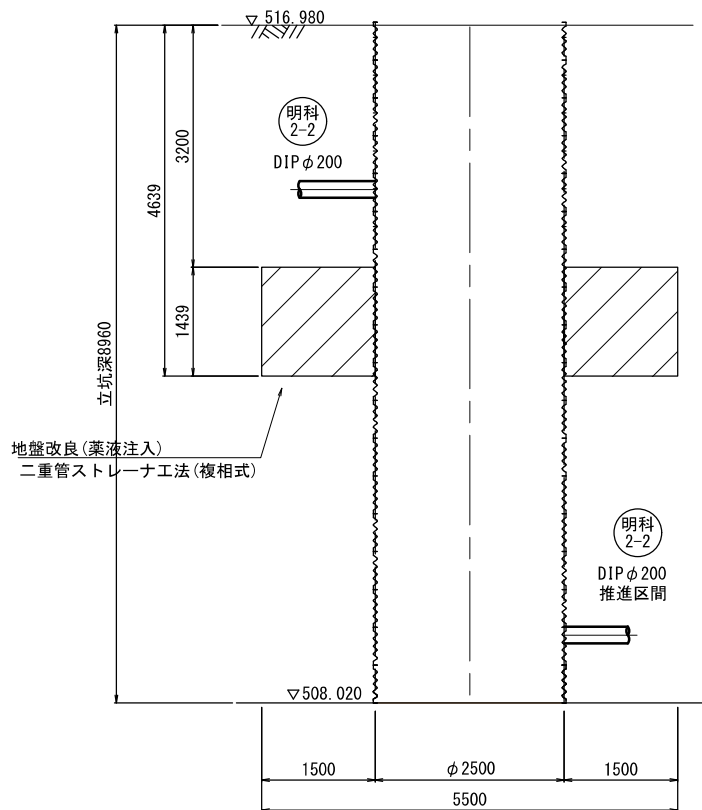
発進立坑φ2500



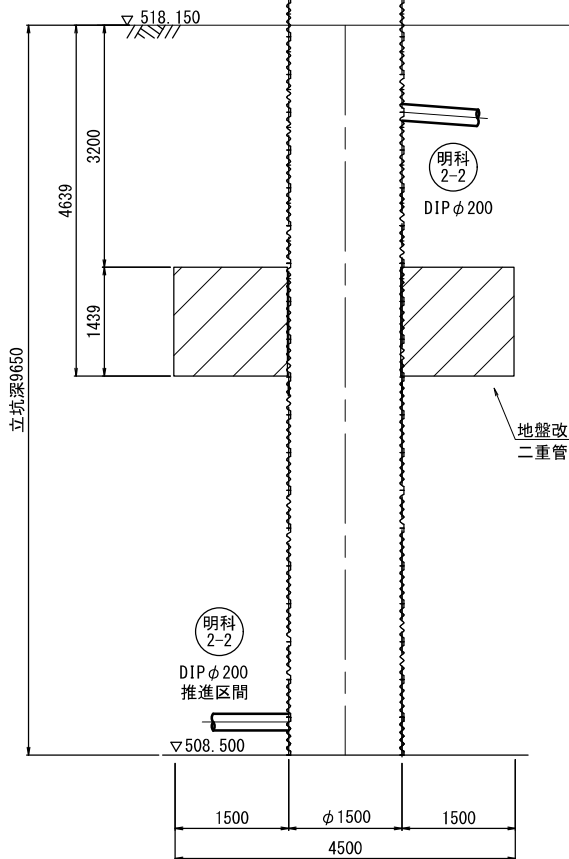
到達立坑φ1500



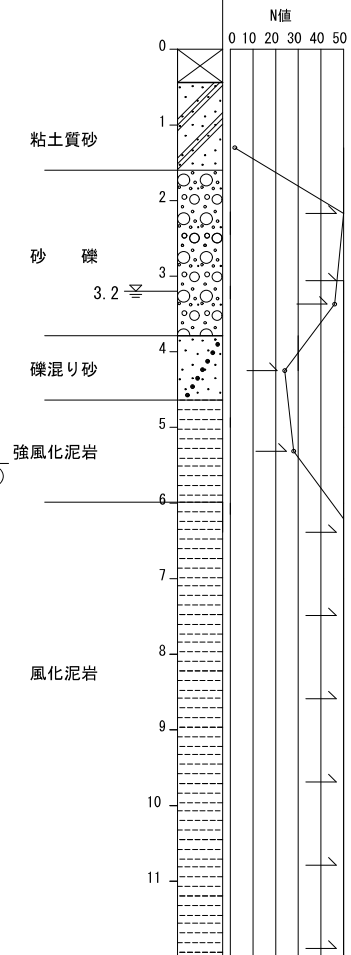
発進立坑
A — A



発進立坑
B — B



既ボーリングNo. 9-13 (会田川付近)
T.P. 各立坑に標高合わせ
Dep. =11.1m
経度=137° 55' 36"
緯度=36° 21' 34"



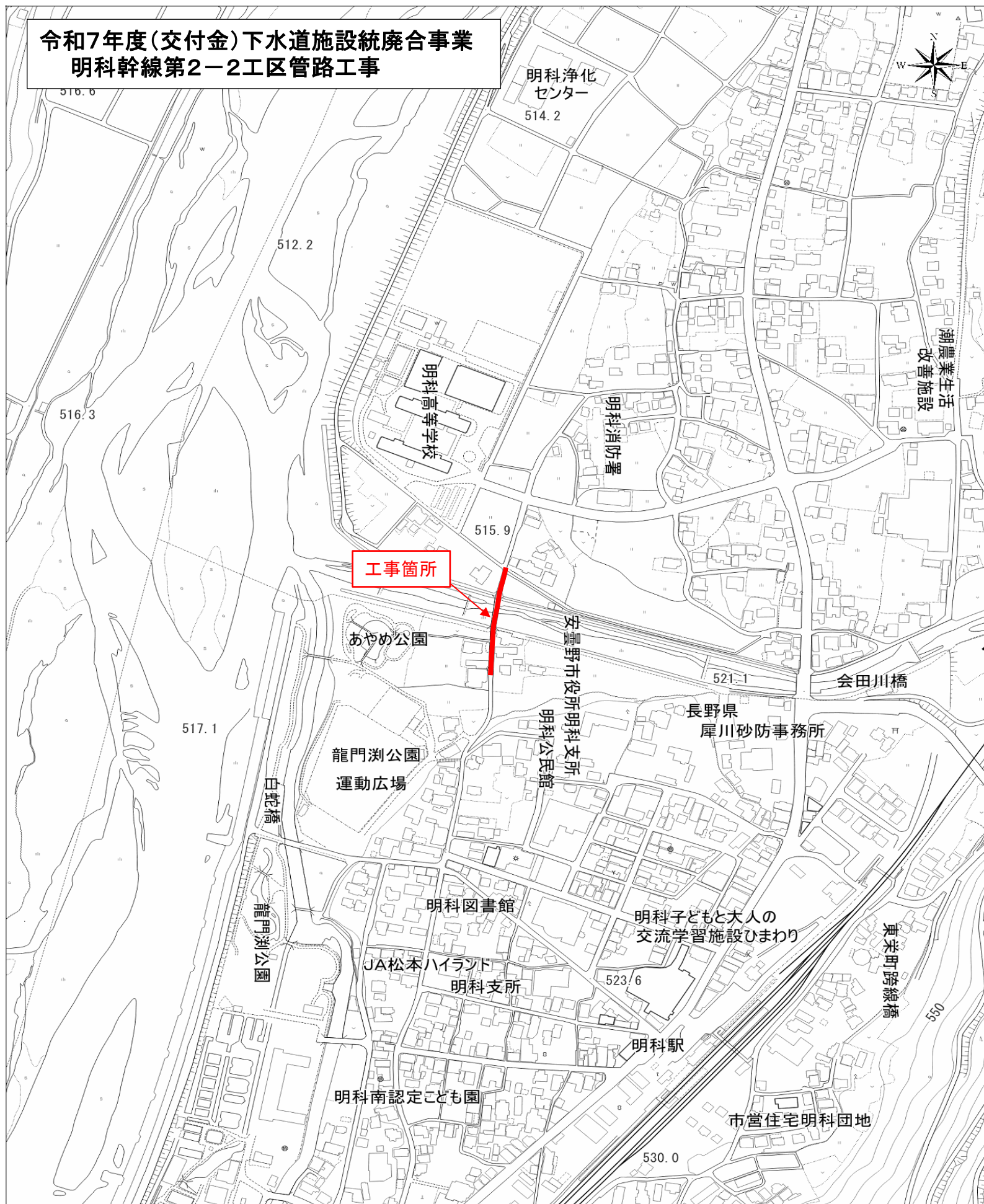
実施図

事業名	明科地域下水道施設統廃合事業 明科第2-2工区		
図面名称	推進立坑地盤改良図		
縮尺	図示	図面番号	10
事業主	安曇野市		10

※強風化砂質泥岩は、ボーリング調査より不透水層と判断した。
※ボーリング調査は近隣であるが標高が異なるため、立坑地盤高の標高に合わせ検討した。

位置図

令和7年度(交付金)下水道施設統廃合事業
明科幹線第2-2工区管路工事



0 20 60m
1:5000

資材単価等について

令和7年度（交付金）下水道施設統廃合事業 明科幹線第2-2工区管路工事に係る工事費の積算にあたっては、長野県建設部の「令和7年度実施設計単価表」や積算資料（財団法人経済調査会）及び建設物価（財団法人建設物価調査会）に設定されている単価により予定価格を算出しています。

また、見積もり等による単価は下記のとおりです。

なお、使用した単価は予定価格算出のものであり、特定の製品や民間取引を指定したものではありません。

見積等により決定している設計単価 (円)

製 品 名	規 格	採用単価	単位		備 考
仕切弁筐	φ200 DP=1.00m用	111,000	基		
仕切弁筐	φ75～φ200 DP=2.00m以下用	155,000	基		
管明示テープ	W30	108	m		
下水道用ダクタイル鋳鉄管 GX形短管1号	短管1号 φ75×7.5K	22,800	個		
下水道用ダクタイル鋳鉄管 GX形短管2号	短管2号 φ75×7.5K	16,200	個		
立上排泥弁室（空気弁室）	角形□600×450、レジコン製、鉄蓋含む DP1.00m～2.00m用	346,000	組		
下水道用空気弁	7.5K φ75	497,000	基		
VCジョイント	φ100	41,600	個		
ロケーティングワイヤー	φ4.4	410	m		
内挿管GX形 甲切管(1種)	φ200 L=1500mm	119,000	本		
さや管推進用EPSリング	φ200	28,400	組		
推進用鋼管	φ400mm(STK-400) t=9.5mm	23,100	m		
鋼管加工費	φ400mm L=1.0m	7,300	本		
止水器	φ400mm	111,000	個		
推進機本体	油圧ユニット・油圧ホース含む	16,000	時間		
送風機	0.8kw	140	日		
動力噴霧器	8～16L/min	1,480	日		
動力噴霧器	19～42L/min	2,270	日		
ラインオイラー	エアーハンマー2台分	334	台		
先導体損料	400mm 推進管用	16,000	m		
特殊エアーホース	38mm 6m/本	263	m		
特殊エアーホース	25mm 12m/本	112	m		
特殊送水ホース	25mm 12m/本	112	m		
滑剤注入プラント		13,100	日		
注入用耐圧ホース	38mm 6m/本	263	m		
マッドオイル	推進工法用 潤滑剤	16	L		
ハイゲル（アロン）	推進工事用増粘剤	2,500	kg		
機械損料	HR-400型	37,500	日		
スクレーパー	φ400mm用	4,570	日		
バケット	0.1m3	258	日		
注入用耐圧ホース	25mm 12m/本	1,340	日		
移動式クレーン作業料金	16t吊り	60,500	日		
先導体組立整備費		198,000	式		

安曇野市下水道工事特記仕様書

施工条件明示

施工監理基準



令和 7 年 10 月

安曇野市上下水道部

目 次

安曇野市下水道工事特記仕様書	P. 3～17
施工条件明示	P. 18～20
別紙ー 1 排出ガス対策型建設機械の使用	P. 21～22
工事における提出書類一覧表	
開削工写真撮影一覧表	
出来形管理基準及び規格値（下水道）	

安曇野市下水道工事特記仕様書

第1章 総 則

(総 則)

- 1 安曇野市が発注する下水道工事の施工においては、下記に示す基準のほか、本特記仕様書によるものとする。
 - 「長野県土木工事共通仕様書」(長野県土木部)
 - 「長野県施工管理基準」(長野県土木部)
 - 「土木工事現場必携」(長野県土木部)
 - 「下水道工事施工の手引き(平成20年度版)」(長野県下水道公社)
 - 「下水道工事実施設計要領(1)―開削工編―」(長野県下水道公社)
 - 「道路土工 仮設構造物工指針」(社団法人日本道路協会)
 - 「たて込み簡易土留設計施工指針」(たて込み簡易土留協会)
 - 「安曇野市公共下水道工事施工基準」(安曇野市上下水道部下水道課)
 - 「水道事業実務必携」(全国簡易水道協議会) 令和5年改訂版
 - 「下水道用ダクタイトイル鉄管管路 設計と施工」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「GX形ダクタイトイル鉄管 接合要領書」(日本ダクタイトイル鉄管協会)
 - 「安曇野市土木工事共通仕様書」(安曇野市都市建設部) 最新版
- 2 優先順位は、安曇野市下水道工事特記仕様書、長野県土木工事共通仕様書の順によるものとする。
- 3 該当しない工種については適用しないものとする。
個別の施工条件について、別紙のとおり定める。

(工程)

- 1 本工事は、余裕期間制度(フレックス方式)対象工事である。「安曇野市余裕期間制度試行実施要綱」に従い取り組むものとする。

本工事は、受注者の円滑な工事施行体制の確保を図るため、事前に建設資材、労働者確保等の準備を行うことができる余裕期間を設定した工事であり、発注者が示した工事の完成期限までの間で、受注者は工期の始期及び工期の終期を任意に設定できる。

なお、契約を締結するまでの間に、別に定める「工事開始日報告書」の様式により、工期の始期及び終期を報告すること。

工期の始期までの余裕期間内は、主任技術者又は監理技術者を設置することを要しない。

また、現場に納入しない資材等の準備を行うことができるが、資材の搬入、仮設物の設置、現場事務所の建設、測量等、工事の着手を行ってはならない。なお、余裕期間内に行う準備は受注者の責により行うものとする。

全体工期 契約締結の日から 333 日間
(余裕期間：契約締結の日から 60 日以内)
- 2 本工事は、発注者指定型週休2日工事の対象工事である。「安曇野市週休2日工事実施要領」

に従い組むものとする。

また、工事契約後、週休2日対象期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じた場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。

- 3 工期は雨天、休日等を見込んでいる。なお休日等には日曜日、祝日、夏季休暇、年末年始休暇のほか、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間 30日間 ②雨休率 0.77（実働工期日数に休日と悪天候により作業ができない日数を見込むための係数）実働日数×係数 ③後片付け期間、その他の作業不能日に関しては見込んでいない。

- 4 受注者は、施工条件に示す関係機関と工事に対する協議等を行い、その結果を踏まえ工程計画を策定するものとする。
- 5 工事箇所又は工事箇所付近で別工事が施工されている場合、相互で工程調整を図り道路利用者の混乱を避けるよう努めるものとする。

（対外関係）

- 1 発注者は本工事着手後に沿線住民を対象とした下水道工事説明会を開催する。受注者は下水道工事説明会に出席し、発注者に提出する工程表とは別に住民向けの工程表を作成し、その内容を説明するものとする。
- 2 受注者は、通行制限を行うにあたり工事箇所沿線の宅地、事業所等の出入り及び車両の駐車場を確保しなければならない。また、沿線の宅地、事業所等に福祉車両、汲取車両、配達車両の出入りがある等特殊事情がある場合これに配慮しなければならない。
- 3 受注者は民地内での工事を行う場合、地権者の承諾を得て着手しなければならない。
- 4 受注者は、境界杭の保全には特に注意を払い、工事施工前に必ず境界杭の確認をするとともに必要に応じ控え杭、写真等に記録しなければならない。また工事の施工により境界杭を移動・破損または、亡失等させた場合は受注者の責において適切に復元しなければならない。
- 5 受注者は、民地内の土地、構造物、立木、施設に損傷を与えた場合は地権者及び管理者に直ちに報告するとともに協議の上復旧しなければならない。
- 6 受注者は、施行条件に示す関係機関との立会等の必要がある場合には、これにあたらなければならない。
- 7 関係機関、所有者、管理者並びにその他関係者との協議内容については、書面及び写真などで協議記録として残すこととする。なお、協議記録の書式については任意扱いとするが、協議事項、指示事項、対応事項及び必要事項については必ず明記し、監督員からの要請があった時は提出しなければならない。

（工事支障物件、占用物）

- 1 受注者は、工事施工箇所に占用物件が予想される場合には、工事の施工に先立って地下埋設物件等の調査を行わなければならない。
- 2 受注者は、工事の施工により道路附属物、河川管理施設、占用物件に損傷を与えた場合には、直ちに応急措置をとり監督員に報告するとともに、管理者及び占用者に連絡し復旧措置を講じなければならない。
- 3 受注者は、工事途中で管理者不明の占用物件を発見した場合には、監督員に報告し、その措置は予想される占用者の立会を得て管理者を明確にしたうえで処置しなければならない。

(環境対策)

- 1 排出ガス対策型建設機械の使用については別紙-1 に示すとおりとする。
- 2 セメント及びセメント系固化材による地盤改良及び安定処理等の土砂とセメント及びセメント細化材の攪拌混合を行う土質を使用する場合は下記によるものとする。
 - (1) セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領(案)(平成 13 年 4 月 23 日国官技第 18 号)により六価クロム溶出試験を実施すること。
 - (2) 配合設計段階の試験結果が土壤環境基準(平成 3 年 8 月 23 日環境庁告示第 46 号)を超える場合は、基準内に納まるよう設計図書に関して監督員と協議するものとする。
- 3 受注者は工事の施工にあたり、掘削箇所の地下水を河川又は水路に放流する場合には、下記によるものとする。
 - (1) 流水断面及び下流域を調査し放流が可能な水量を放流するものとする。
 - (2) 放流に先立ち河川又は水路の管理者の承諾を得なければならない。
 - (3) 砂及び土砂を併せて放流してはならない。砂及び土砂を放流させた場合は河川又は水路管理者に報告するとともに、受注者の責によりこれを除去しなければならない。

(交通安全管理)

- 1 受注者は、工事の施工にあたり公衆の交通の安全を確保しなければならない。
- 2 受注者は、安全管理については道路工事保安施設設置基準(平成 18 年 4 月 1 日国関整道管第 65 号)及び下記によるものとするが、工事現場の実状に応じた方法により交通管理を行わなければならない。
- 3 交通規制及び標識については、道路工事現場における標示施設等の設置基準(平成 22 年 7 月)に基づき適切に設置するものとする。ただし、これにより難しい場合は監督員と協議するものとする。
- 4 受注者は、夜間開放時には保安灯を設置するものとし、工事期間中は保安灯、バリケード、標識の保守点検を実施しなければならない。
- 5 受注者は、道路の交通規制を行う場合は、規制の計画を監督員に提出するとともに関係機関に所定の手続きをとらなければならない。

なお実施にあたっては、関係機関からの指示事項を順守しなければならない。

- 6 工事期間中に配置する交通誘導員は、施行条件に明示した配置人員とする。ただし道路管理者、交通管理者との協議条件などの社会的要件、現場精査に基づく配置人員の変更が必要になった場合は監督員と協議するものとする。
- 7 受注者は、通行規制に伴う迂回路を定めた場合、工事期間中は迂回路の保守、点検を行い公衆の安全な迂回を確保しなければならない。また、迂回路の損傷を発見した場合は直ちに監督員に報告しなければならない。
- 8 受注者は、道路に通勤車両及び建設資材を置いてはならない。
- 9 工事区間または、迂回路区間が小中学校の通学路に指定されている場合、契約締結後早急に学校教育課を通じて各小中学校と協議をしなければならない。通学路を変更する場合は、適切かつ安全な対策を講ずること。その他の福祉バス、巡回バス等の運行路線になっている時も同様に関係機関等と協議をすること。
- 10 工事区間内及び工事区間周辺に店舗がある場合は、店舗責任者及び管理者などと店舗への出入り口及び駐車場などについて事前協議すること。また、協議内容、対策等を現場着手前に監督員へ書面にて報告すること。

(主任技術者等の選任期間)

- 1 契約締結日から実工期の始期日までの期間については、主任技術者又は監理技術者の設置を要しない。
- 2 契約締結日から工事開始日の前日までの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、発注者と受注者の間で書面により明確にした場合に限り、主任技術者又は監理技術者の工事現場での選任を要しない。

(その他)

- 1 契約額が 500 万円以上の工事については、工事实績情報サービス(CORINS)に基づき、受注時・変更時・完成時・訂正時(工期延長、現場代理人、主任技術者の変更)に工事实績情報として工事カルテを作成し、監督員の確認を受けた上で登録すること。また、登録完了書の写しを提出すること。各登録期限は、受注・変更時登録は契約後 10 日以内(土曜日、日曜日、祝日等を除く)、完成時登録はしゅん工後 10 日以内とする。ただし、変更時と完成時との間が 10 日間に満たない場合は、変更時登録を省略し、竣工時登録に併せ行うことが出来ることとする。
- 2 契約額が 800 万円以上の工事については、建設業者は、建退協制度の発注者用掛金収納書原本を発注者へ 1 ヶ月以内に提出すること。また、竣工書類の一部として収支表を提出すること。
- 3 建設業法第 26 条の規定により、受注者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者又は専任の監理技術者(以下、技術者と言う。)は、適切な資格、技術力を有する者(本工事現場に常駐し、専らその職務に従事する者で、受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る)を配置すること。(受注者と直接的かつ恒常的な雇用関係とは、本工事の入札執行日前に受注者と技術者との間に 3 ヶ月以上の雇用関係が必要である。)
- 4 本特記仕様書に疑義が生じた場合は、受注者と発注者が協議のうえ決定することとする。
- 5 本工事の現場技術業務を、公益財団法人長野県下水道公社に委託している。

現場技術員は工事受注者に対して適切な助言指導、施工監理を行い、設計の変更、現場の施工条件、施工方法等の変更が生じた時は、監督員と協議し工事請負者に通知する。

6 監督員、現場技術員は、別途指定し通知する。

第2章 施工

(起工測量)

- 1 本工事着手前に起工測量を実施し、成果を施工前に必ず提出すること。測量方法については水準測量などの適切な測量方法により行なうこと。測量を実施した際、規定値から外れているもの(スパン延長、マンホール設置地盤高、流出管底高など)があれば監督員と協議すること。また、施工後(マンホール鉄蓋設置後)上記内容を満たしていない場合は、鉄蓋の再設置(高さ修正)を依頼する場合があるので、事前調査を十分行なった上で施工すること。なお、図面に記載されているベンチマークの高さについても併せて確認作業を行ない監督員に報告すること。
- 2 起工測量結果に基づき、組立式マンホールの組合せ表を施工計画書又は施工協議書に添えて提出し、監督員の承認を得ること。なお、使用する組合せ部材に5cmの調整リングは使用しないこと。また、しゅん工時における組立式マンホールの組合せ表をしゅん工書類に添付すること。
- 3 現場施工については、『施工計画書・材料承認願い・起工測量結果・汚水桝調査表・下請負人通知書・その他必要書類など』の提出後とし、監督員の承認を得てから現場着手することとする。
- 4 水準測量において設置した仮ベンチマークは、施工途中で狂いが生じないよう堅固に設けること。特に隣接工区工事が発注されている場合又は今後発注された場合には、隣接工区受注者とベンチマークの高さについて関連付けをすること。なお、本工事において設置した仮ベンチマーク(特に工事区間内周辺宅地、周辺水路脇など)は工事終了後遅滞なく撤去すること。

(材料)

- 1 本管(圧送管)は、下水道用ダクタイル鋳鉄管(JSWAS.G-1)を使用する。
- 2 管、弁類を取り扱う場合は、その接合部及び塗装部分などに損傷を与えてはならない。
- 3 管、弁類の積みおろしをする場合は、台棒等を利用し、巻きおろすか又はクレーン等で2点吊りにより、管を損傷させないように十分な注意をしなければならない。
- 4 管、弁類を運搬又は移動する場合は、クッション材を用いて行い、損傷、内面塗装を痛めないよう十分な注意をしなければならない。
- 5 管、弁類を保管又は一時仮置きする場合は、台棒、角材、板材等を敷いて、直接地面に接しないようにし、転がり止めを確実に行わなければならない。
- 6 材料の運搬は丁寧に行い、材料の損傷を防ぐこと。現場において管を保管する際、曲がりや変形を防ぐため原則として屋内保管をすること。やむを得ず屋外保管をする時は、簡易屋根を設けるか不透明シートで管を覆い直射日光を避け、熱気がこもらないよう風通しの良い方向へ受口又は差口を向けること。また、接着剤などは冷暗所において保管すること。
- 7 組立式マンホールと本管との接続は、設計書に記載の可とう継手を設計図にしたがって設置

すること。

- 8 使用する全ての材料について使用承認を得ること。ただし、(社)日本下水道協会の認定工場制度による工場製品の場合は、検査証明書(自主検査結果及び検査証明書並びに検査成績書)の提出により立会い検査に代えることが出来る。この場合、事前に監督員の承認を得るとともに搬入された認定標章および製造年月日の確認をすること。
- 9 管渠の基礎に使用する材料は、埋戻し用砂を使用するものとする。
- 10 試掘により管基礎材として使用できる路盤材の有無を確認し、同時に土質試験資料の採取を行うこと。また、使用できる路盤材が確認されたときは、監督員と協議し可能な限り管基礎材として再利用できるように発生土と分けて保管すること。

(土工)

- 1 掘削にあたっては、設計幅以上とならないよう施工すること。なお、土質による設計変更は基本的に行わないものとする。建物、その他構造物等に接近した場合には、完全な防護を施した上で施工すること。
- 2 本工事により発生する残土は原則として指定処分とする。なお、残土処分量が確認できる資料をしゅん工書類に添付して報告すること。
施工計画書には現場から仮置場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間を明記し、仮置場から最終処分場までの搬出経路、搬出距離及び運搬時間も明記すること。なお、仮置場(現場発生土、アスファルト殻など)の安全対策を講じたものを施工計画書に明記すること。
- 3 管上 10cm から 30cm までの良質土埋戻しは、レキ径 20 mm を超えない土砂とする。下水道実施設計要領(1)一開削工編一及び日本下水道協会(G-1)規格を確認し埋戻し材を決めること。埋戻し材を変更する場合には、変更理由、使用材料、施工方法などを監督員と協議すること
- 4 埋戻し材の土の含水比、締固め試験、修正 CBR 試験を報告すること。なお、品質基準値は、締固め度(90%以上)・修正 CBR(20%以上)とする。
- 5 埋戻し材は発生土の良質なものとし、埋戻しに適した含水比で埋戻すこと。軟弱土質等埋戻し材として不適当と判断された時は砂等で置き換えて施工すること。
- 6 埋戻しの施工にあたり、管渠その他の構造物の下部に空隙が生じないようにすること。また偏圧が作用しないよう左右均等に十分な締固めること。
- 7 埋戻し作業にあたり、管渠に影響を与えないよう土砂を投入し、一層の厚さが 30cm を超えない範囲で一層毎に不陸のないよう敷均し人力により十分締め固めること。路体の締固め密度は最大乾燥密度の 85%以上・路床は 90%以上を確保し、密度試験は 500 m³に 1 回の割合で行うこと。
- 8 受注者は施工後の路面の不等沈下や宅地の地盤沈下等が生じない様、入念に埋戻しを行うものとする。
- 9 掘削溝内に埋設物がある時は、埋設物管理者との協議に基づく防護を施し、埋設物付近が将来沈下しないようにすること。
- 10 路体部、路床部の密度試験実施箇所については、発注用の平面図へ試験実施箇所が分かるよう記載し監督員へ報告すること。

- 1 1 農地を残土置場又は資材置場などに使用する際は、契約締結後早急に農業委員会事務局と協議し、「農地の一時利用転用願」を提出すること。

(本管布設)

- 1 管の布設にあたっては「安曇野市公共下水道工事施工基準」によるものとする。
- 2 埋設物等があり設計書どおり施工できない場合は協議すること。(上水道管やその他構造物などとの離隔は交差時、並列時共 30cm を原則とする。)
- 3 ゴム輪接合において、ゴム輪が正確に溝にはまっているか確認すること。ゴム輪のねじれ・はみ出しがある場合は再装着すること。また、ゴム輪接合部に付着している泥土、水分、油分等は乾いた布などで清掃すること。
- 4 接着剤塗布後は、素早く差口を受口に挿入し所定の位置まで差し込みそのまましばらく保持すること。なお、呼び径 200 mm 以上は原則として挿入機を使用し、かけや等による叩き込みはしないこと。また、接着直後は接合部に無理な外力が加わらないように注意すること。
- 5 管の基礎については設計厚以上を確保すること。また、良質土埋戻しを管基礎の材料と同様のものに変更した場合も設計厚以上を確保すること。その際の写真撮影、出来形管理等は管基礎と同様の管理を行なうこと。
- 6 管の据付けに先立ち、十分管体検査を行い、亀裂、塗装のはがれ、その他の欠陥がないことを確認しなければならない。
- 7 管の吊り下ろしにあたって、土留用切梁を一時取り外す必要がある場合は、必ず適切な補強を施し、安全を確認の上作業しなければならない。
- 8 管の据付けにあたっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定して移動しないように固定する。このとき、管体の表示記号を上に向けて据付けなければならない。
- 9 直管を使用して曲げ配管を行わなければならない場合は、監督員の承諾を得てから継手の持つ許容曲げ角度以内で行わなければならない。
- 1 0 一日の布設作業完了後は、管内に土砂、汚水等が流入しないような措置を行うとともに、管内には綿布及び工具類等を置き忘れないよう注意しなければならない。
- 1 1 さや管内へ管を布設する場合は、さや管と布設管が接触して塗装面が損傷しないように、押し込みには適切な器具等を取り付けなければならない。
- 1 2 配管作業に従事する技能者は、豊富な経験と知識を有する熟練した者でなければならない。

(管の切断)

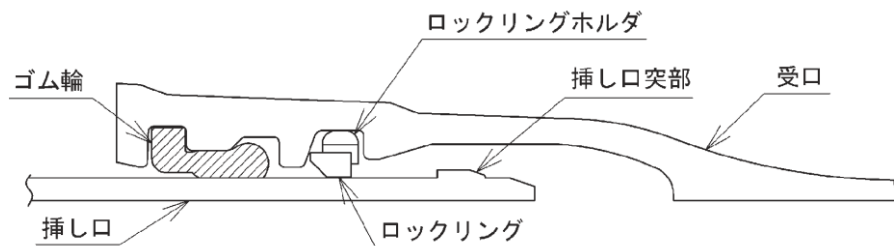
- 1 管の切断にあたっては、所用の切り管長及び切断箇所を正確に定め、切断線の標線を管の全周にわたって入れる。
- 2 管の切断は、管軸に対して直角に入れること。
- 3 切り管が必要な場合には残管を照合調査し、極力残管を使用すること。
- 4 鋳鉄管の切断は切断機で行うことを標準とし、異形管を切断してはならない。
- 5 鋳鉄管の切断面は、ダクティル切管鉄部用塗料で塗装し防食しなければならない。

- 6 鋼管は切断完了後、新管の開先形状に準じて丁寧に開先仕上げを行う。また、切断部分の塗装は、原則として新管と同様に仕上げること。

(管の接合)

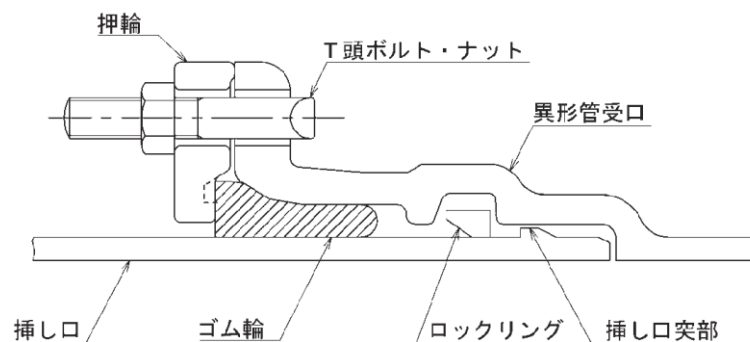
G X形ダクティル鋳鉄管の接合

a. 直管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 管のメーカーマークを上にして、所定に位置に静かに吊りおろす。
- 2 管の受口溝とゴム輪の当たる面及び挿し口外面の異物除去と清掃を行う。
- 3 ロックリングとロックリングホルダの確認を行う。
- 4 ゴム輪を確認後清掃し、受口内面の所定の位置に装着する。
- 5 ゴム輪の内面と挿し口外面のテーパ部から所定の位置まで滑剤を塗布する。
- 6 管をクレーンなどで吊った状態にして、挿し口を受口に預ける。この時 2 本の管が一直線又は 2° 以内になるようにする。
- 7 レバブロックを操作して挿し口を受口に挿入し、所定の位置まで受口端面にくるように合わせる。このとき、曲げ挿入は行わないこと。

b. 異形管の接合 : $\phi 75 \sim \phi 400$



- 1 挿し口外面と受口内面の清掃を行う。
- 2 接合部品(押輪及びゴム輪)を挿し口へ預け入れる。
- 3 受口内面、挿し口外面、ゴム輪外面に滑剤を塗布する。
- 4 挿し口を受口に挿入する。
- 5 ストッパーを取り外す。
- 6 挿し口突部がロックリングを通過しているか確認する。

- 7 ゴム輪、押輪をT頭ボルト・ナットで締め付ける。
- 8 押輪の施工管理用突部と受口端面がメタルタッチになっていることを確認する。

(管路山留め)

- 1 開削工事の土留工は、土工標準図に記載の土留め材で施工することを標準とし、これにより難しい場合は監督員と協議すること。
- 2 土留と地山に間隙が生じた場合は、砂詰め等を行い周辺地盤に影響が出ないよう施工すること。
- 3 施工計画書に土留工の構造計算書を添付すること。その際、構造計算書には作成者の押印をすること。また、構造計算書の作成にあたり次の内容を守ること。土留め設置高及び掘削幅毎に計算書を作成し、土の単位体積重量は $20.0 \text{ (kN/m}^3\text{)}$ 、載荷重 $10.0 \text{ (kN/m}^2\text{)}$ 、内部摩擦角を算出する際の N 値は 6 とする。なお、本条件と違う土質条件の場合には、参考資料、土質状況写真及びその他関係資料を添えて監督員と協議し、監督員の承認後構造計算書を作成すること。
- 4 建て込み簡易土留めの施工に当たっては、土留材の設置部を先掘りしながら所定の深さに設置しなければならない。先掘りは背面土砂が崩壊しない深さとし、30cm 以下で施工しなければならない。なお、全ての箇所において土留材は掘削底面と同じか又は深く設置しなければならない。
- 5 土留めを建て込む際に使用するバックホウは、クレーン仕様を原則とする。なお、クレーン仕様が分かる写真を撮影し、しゅん工書類に添付すること。
- 6 バックホウによる吊り込み作業には、専用装置以外の装置を使用しないこと。また、バックホウでの打撃による建込は行わないこと。
- 7 機材の引き抜きは、トラッククレーン等により施工すること。
- 8 機材は締固め厚さ毎に引き抜き、パネル部分の埋戻しと締固めを十分行い、写真確認が後日できるように管理すること。
- 9 土留めパネル裏側に空隙が生じた場合、アスファルト舗装などを撤去し裏込め材を投入すること。また、土留めパネル引き抜き後は開削部分だけでなく空隙が生じた箇所も十分転圧すること。なお、転圧が不十分な場合には、道路面における地盤沈下があるので細心の注意を払って施工すること。

(立坑土留め)

- 1 立坑(マンホールポンプ設置部)に使用する土留めはライナープレートを標準とする。
- 2 使用するライナープレートは、地質条件及び掘削方式を検討の上、十分に安全なものを選定し、施工計画書に明記し監督員に提出しなければならない。
- 3 ライナープレート式土留工の施工は、周囲の状況を考慮し、掘削深さ、土質、地下水位、作用する土圧及び載荷重を十分検討し施工しなければならない。
- 4 ライナープレート式土留工の土留掘削に先立ち、溝掘り及び探針を行い、埋設物の有無を確認しなければならない。
- 5 ライナープレート土留掘削は、先行掘削になるため、地盤が自立していることを確認し順次

掘下げていくこと。また、ライナープレートと地山との空隙を少なくするよう掘削しなければならない。

- 6 掘削は1リングごとに行い、地山の崩壊を防止するために速やかにライナープレートを設置しなければならない。
- 7 1リング組立て完了後、形状、寸法、水平度及び鉛直度等を確認し、ライナープレートを固定するため、頂部をコンクリート及びH鋼等で組んだ井桁による方法で堅固に固定し、移動や変形を防止しなければならない。
- 8 ライナープレートの組立てにおいて、継目が縦方向に通らないよう千鳥状に設置しなければならない。また、土留背面と掘削壁との間にエアーモルタル等で間隙が生じないようにグラウト注入し、固定しなければならない。
- 9 補強リングを用いる場合には、補強リングをライナープレートに仮止めしながら継手版を用いて環状に組立て、その後、下段のライナープレートを組立てるときに、円周方向のボルトで固定しなければならない。
- 10 ライナープレート埋戻しにおいて、ライナープレート存置は設計図書による。ただし、立坑上部については取りはずすこととし、その処置及び方法について監督員と協議しなければならない。
- 11 立坑内での作業員の昇降設備や立坑内への資機材の吊下しについては、安全を十分に確保したうえで作業を行わなければならない。

(マンホール設置工)

- 1 調整モルタルの打設は舗装復旧前を原則とする。
- 2 インバート形状は流入管底と流出管底を直線で結んだものとする。ただし、落差の大きい箇所副管を使用しない場合、または直角に曲がるインバートの場合は監督員と協議すること。
- 3 工区最下流並びに最上流マンホールのインバートは、設計書の数量計算書に基づくものとする。上流より流入計画のあるマンホール(平面図において確認すること。)については、原則としてインバートの施工はしないこと。ただし、副管の場合はこの限りではないので監督員と協議すること。
- 4 起点マンホールのインバートは流出管幅でマンホール内径全ての長さを円形に仕上げること。ただし、取付管流入がある場合は2の記載による。
- 5 1号マンホールのステップは原則として流出側に設置する。
- 6 マンホール鉄蓋の向きは、デザインの上部が流出管方向を向くよう設置すること。ただし、親子蓋の場合は、上記5と関連付けをすること。
- 7 マンホール深さが2mを超える時は、転落防止梯子付の鉄蓋を設置すること。
- 8 既設マンホールへ接続する際は、管の端面を内壁に一致させること。なお、供用開始後のマンホールへ接続する際には、酸素欠乏空気の危険性、有毒ガス発生の可能性等の有無について事前に調査すること。また、作業にあたっては関係法令等を遵守し作業の安全性を確保すること。
- 9 副管の本管への接続は本管勾配に対して直角に設置する。また管端が突出しないように鉛直

に行うこと。

- 10 マンホール部材の吊り込みは、上下同時作業にならないように施工すること。また、マンホール周辺の埋戻しは、極力部材1個毎に行ない偏土圧による傾斜を防止するため、360度均一に行うこと。ただし、組立て完成写真を撮影するため施工方法、写真撮影時期について監督員と協議すること。
- 11 マンホール設置地盤高については特に留意し、周辺地盤高、道路勾配(縦断勾配、横断勾配)、周辺構造物などとの整合を図ること。

(補助地盤改良工(薬液注入))

- 1 薬液注入工事の着手前に下記について監督員の確認を得なければならない。
 - (1) 工法関係 ① 注入圧 管路編 2-11 ② 注入速度 ③ 注入順序 ④ ステップ長
 - (2) 材料関係 ① 材料(購入・流通経路等を含む) ② ゲルタイム ③ 配合
- 2 薬液注入工事は、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針(建設省通達)」の規定によること。
- 3 薬液注入工事の施工管理等は、「薬液注入工事に係る施工管理等について(建設省通達)」の規定によること。
- 4 注入工事の施工にあたっては、昭和52年4月21日付け建設省官技発第157号「薬液注入工法の管理について」に定められた技術者を注入責任技術者として届け出るとともに、注入作業中は常駐させるものとする。
- 5 注入工事に使用する薬液は、水ガラス系の薬液(主剤が珪酸ナトリウムである薬液をいう。)で、劇物またはフッ素化合物を含まないものに限る。ただし、工事施工中緊急事態が発生し、第二次災害を防ぐための応急措置として薬液注入工事を施工する場合は、監督員の承諾を得て現場の状況に応じて、劇物の少ない薬液を使用することができる。この場合においてもアクリルアミドは使用しないこと。
- 6 薬液注入工事を施工するにあたっては、注入箇所及びその周辺地域の地下水、公共用水域、土質、地下埋設物、井戸、植物並びに農作物等について、あらかじめ調査をしなければならない。

(さや管推進工)

- 1 一般事項
 - (1) 推進工事施工に際しては、十分な知識と経験を有する技術指導員を現場に随時派遣し、作業者を指導しなければならない。
 - (2) 当該工事箇所の構造物等の管理者がいる場合は工事着手前に工程、施工方法等の打ち合わせをし、事故防止、工事進捗等に支障のないようにしなければならない。
 - (3) 地下埋設物等の支障物件については事前に調査を行い、関係者と調整、打ち合わせを行い、必要な措置を講じなければならない。
- 2 さや管

~~さや管は原則として、日本下水道協会規格 JSWAS-A2(下水道推進工法用鉄筋コンクリート)~~

~~の標準管とする。ただし、その他の管を使用する場合は、あらかじめ監督員の承認を受けなければならない。~~

3 さや管推進工

- ① 工事に先立ち、土質調査資料等を十分検討し、推進方法及び補助工法等を選定する。
- ② 管の押込みにあたっては、設計図書に基づいて中心線及び高低を確認し、施工しなければならない。
- ③ 掘削の結果、管の押込みに対しての後方（地山）支持力が不十分な時は監督員と協議のうえ、必要に応じて適切な補強をしなければならない。
- ④ 管の押込みにあたっては、管先端部周囲の土砂の崩落を防ぐ工法で行い、管内に入った土砂だけを掘出し、先掘り等の周囲の土砂をゆるめることのないように施工しなければならない。
- ⑤ 管の接合は、地下水、細砂等が流入しないようにシーリング材充填等を行わなければならない。又押込み口には出水時の排水のための、水替え設備を準備しなければならない。
- ⑥ 監督員が指示した場合は、地質の変化があるごとに資料を採集し、地層の状態について地層図を作成し、監督員に提出しなければならない。
- ⑦ 押込み中に、障害物、湧水、土砂崩れ等が生じたときは、直ちに臨機の処置をとるとともに、監督員に報告しなければならない。
- ⑧ 管の周囲に空隙を生じた場合は、直ちにセメントグラウト等で裏込め充填しなければならない。
- ⑨ グラウトは管内面から行い、配合、注入圧力は監督員と協議し、承諾を得なければならない。又、施工については監督員の立会を原則とする。
- ⑩ 地盤改良を行う場合は監督員と協議し、承認を得なければならない。

4 押込み完了後の処置

- ① 地山補強等は配管工事に支障ないように、速やかに取り壊さなければならない。
- ② さや管の継手部は再確認し、必要あれば再度シーリング等の充填を行うこと。
- ③ 必要に応じて、管の周囲にセメントグラウトを行うが、工事箇所周囲の状況には十分注意し、井戸水等への影響がないようにしなければならない。

（仮設工）

- 1 本工事の仮設工は施工条件明示による。
- 2 受注者は、安曇野市景観条例（平成 24 年 3 月 26 日条例第 10 号）第 12 条 3 の規定に基づき、屋外における土石、廃棄物、再生資源その他物件の堆積が以下の値を超える場合は、安曇野市長に景観計画区域内における行為の届出を行為の 30 日前までに行うこと。
※面積 100 m²又は堆積の高さが 3 m （届出先：都市建設部 建築住宅課 建築景観係）

（用地関係）

- 1 工事に伴い、現場事務所、材料置場、土砂置場等に要する敷地が必要な場合、敷地の借り受

けその他必要な手続きは受注者の責任において行うものとする。

- 2 前項により用地処理したときは、その土地使用により生じた苦情、紛争等は受注者が責任を持って解決しなければならない。
- 3 工事に伴い、工事箇所隣接する土地の境界杭や構造物が支障となる場合は、直ちに監督員と協議し、物件所有者と調整を図ること。

(付帯工)

- 1 本工事におけるアスファルト舗装復旧は仮復旧を原則とし、1路線毎随時復旧する。なお、設計幅以上の復旧は監督員の指示があるとき以外は原則として設計変更の対象としない。ただし、既設舗装の損傷及びその他地下埋設物の復旧跡などがある場合は事前に監督員に報告すること。また、アスファルト舗装を復旧する際には監督員の現地立会いを受けたあとに行なうこと。
- 2 下層路盤及び上層路盤の出来形管理は、設計掘削幅に対し管理すること。
- 3 路盤工の1層当たりの最大仕上げ厚は、上層路盤は15cm、下層路盤は20cmまでとする。
- 4 舗装復旧する際に使用した舗装止め型枠等は、舗装復旧終了後速やかに撤去及び片付けをすること。また、撤去した合材が農地や宅地に飛散した場合も同様に撤去及び片付けをすること。
- 5 舗装復旧(本復旧、仮復旧とも)をする場合には、建設機械などで道路上にある構造物(下水道用マンホール鉄蓋、上水道用仕切弁、横断水路など)に影響を与えないようにすること。また、各構造物の高さ調整が必要となる場合には、協議書に図面及び現況写真等を添えて監督員と協議すること。なお、路肩にある構造物等も同様に整合を図ること。
- 6 舗装復旧は周辺の構造物及び路面と整合を図りながら平坦性を保ち施工する。
- 7 舗装施工中は温度管理に注意し、常に平坦性を考慮しながら仕上げを行なうこと。また、開放時の温度や外気温等にも注意し施工を行ない、温度管理同様写真管理を行なうこと。
- 8 舗装終了後は、マンホール鉄蓋に付着したアスファルト合材を除去すること。
- 9 本工事において消失した路面表示は、施工前の状態に復旧するものとする。この場合設計の掘削幅のみ設計計上のみ変更対象影響とする。ただし、既存道路の路面状態が悪い場合や消失しかけた場合などの理由はこの限りではないので、現場作業着手前に監督員と現地立会いを実施し、工事後の路面状況により(本復旧又は仮復旧)路面表示等の各復旧方法についての対応を監督員と協議すること。
- 10 工事箇所周辺に水路等がある場合には、現地作業終了後水路清掃を行うこと。また、本工事において支障を与えた農地等の土手崩落及び舗装道路、砂利道の路肩崩落、迂回路の路面復旧等も現地作業終了後復旧すること。
- 11 宅地への出入り、農地等への出入りは土地所有者及び耕作者等と協議して施工すること。また、施工に際しては『施工前よりも施工後の出入り条件が悪くなった』などの苦情がないようにすること。ただし、土地所有者及び耕作者等と協議を進めていく中で、過剰なまでの要求があった場合には監督員と協議すること。
- 12 舗装コア採取箇所は監督員の指示により行い、舗装厚の確認を求めること。また、100%出来形図へ採取箇所を記載ししゅん工図書とともに提出すること。

(書類・検査)

- 1 本工における着手時、施工途中時、完成時の提出書類は「安曇野市公共下水道工事施工基準」に準じて作成すること。
- 2 配管中は継手ごとに別途添付するチェックシートを用いて管理すること。
- 3 配管中または配管後の検査として、継手接合時の作業検査、管路水圧試験が行われている。水圧の代わりに空気圧で試験を行うと、管が吹き飛ばされる恐れがあるため決して行ってはならない。

以下より管路水圧試験について示す。

- ①管路の充水は、原則として管路の低い方から、管内空気の排出状況を確認しながら、ゆっくりと行うことが望ましい。
 - ②管路の水圧試験は、管内の残留空気を少なくするために、充水後少なくとも一昼夜程度経過してから行うものとする。また、充水中は管路の異常の有無を点検して事故の防止に努める。
 - ③試験は、試験水圧まで加圧した後、一定時間保持し、その間の管路の異常の有無および圧力の変化を調べる。なお、試験水圧、保持時間および許容圧力低下量については使用水圧、管路延長、管種、付帯設備および施工条件などを考慮して適切な数値を設定する。
- 4 出来形が 80%に達したときは速やかに 80%予想出来形展開図を提出すること。
 - 5 マニフェストの写し(コピー)は、A 表、B2 表、D 表、E 表を搬出初日及び搬出最終日を添付し提出すること。なお、搬出量が大量にある場合(50 t 以上)は、搬出中間日も添付すること。その他の日は搬出初日から最終日まで分かるよう総括表を添付すること。
 - 6 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書については、用紙を各 1 枚ずつ添付し、入力した媒体(FD 又は CD)も提出すること。
 - 7 資機材料の納入伝票は、受注者において品目毎に取りまとめ管理すること。また、抜き取った舗装コアについても同様に管理ししゅん工検査時に持参すること。なお、しゅん工検査後は受注者において保管すること。この場合の保管年数は、工事完了年度より 5 年間とする。
 - 8 デジタルカメラを使用する場合、有効画素数は 200 万画素以上とし、工事写真の大きさはサービス版サイズと同等とする。また、使用する用紙は白色度 85%以上とし書面にて監督員へ報告すること。
 - 9 写真撮影箇所、撮影時期などは設計図書のとおり行なうこと。また、品質管理や出来形管理も同様に行なうこと。

(後片付け)

- 1 工事を終了したときは、残材、廃材等を撤去し工事現場の後片付け及び清掃等を工期期限内に完了しなければならない。
- 2 工事中影響を与えた構造物、土地等は管理者の承諾のもと、受注者の責任により復旧すること。

第3章 安全対策、交通管理

(安全対策・交通管理)

- 1 受注者は労働災害及び公衆災害の防止に努めなければならない。
- 2 本工事区間内に農地(水田・畑等)がある場合には、土地所有者及び耕作者と協議し、耕作(田植え、稲刈り及び収穫など)等の作業の支障にならないようにすることとする。
- 3 工事中、関係者(住民、通行者等)が詳細な工事工程、交通規制方法(迂回路等)を理解出来るよう前もって連絡や表示を行うこととする。全面通行止めの場合は遅くとも10日前、片側交互通行の場合は7日前には設置することとする。
- 4 本工事において仮駐車場が必要となった場合は、受注者において確保、手配すること。また、仮駐車場として借用した土地については原形復旧し、土地所有者の確認を受けて返すこと。
- 5 現場管理費には、工事期間中、月一回半日以上の安全教育・研修訓練等の費用が含まれているので必ず実施しなければならない。また、実施計画を施工計画書に記載し、実施状況がわかる資料をしゅん工時に提出しなければならない。
- 6 受注者は、苦情等があった場合、丁重に対応し、直ちに工事監督員に報告しなければならない。

(施 工 条 件 明 示)

注) 明示事項がない場合は、「無し」と記入する

工 事 件 名		令和7年度（交付金）下水道施設統廃合事業 明科幹線第2-2工区管路工事				
1. 工 程 関 係	・ 全体工期は、333 日間とする。 273 日間(標準工期)+60 日間（余裕期間） 上記期間には、休日数、作業不能日数、各種届出等期間、社会的制約条件等、作業編成、手直し期間等を含む。 ・ 本工事は下記の関係機関、地域住民と協議を要する。					
	関 係 機 関 名		届出・協議事項		時 期	
	道路管理者(市・維持管理課)		道路通行制限願い		着手前	
	安曇野警察署		道路使用許可		着手前	
	市学校教育課、小中学校、認定こども園、明科高校		小中学校通学路、バス運行、通園路、生徒の通学、各種行事調整		着手前	
	地元区・沿線住民・店舗、事業所		工事説明・交通規制等		着手前	
	河川管理者及び水路管理者(安曇野建設事務所、地元水利組合など)		水止め・水替の放流		着手前	
	工事支障物件の管理者		占用物付近の施工について		着手前	
	安曇野市 環境課		ゴミステーションの移動・収集運搬業者の通行		着手前	
	公共交通機関（あづみん）		通行制限について		着手前	
	NTT、中部電力、あづみ野テレビ		電柱、架空線、地下埋設物等		着手前	
	その他		必要に応じて		適時適切に対応	
2. 用 地 関 係	無し					
3. 公 害 対 策 関 係	・ 指定工種において排出ガス対策型建設機械を使用すること。(別紙-1 参照)					
4. 安 全 対 策 関 係	・ 本工事における交通整理員は、下記のとおり配置を計上している。 ・ 人工数は任意扱いの参考値であるため、入札にあたり留意すること。なお、近接工事などで交通量が著しく増減した場合や、道路管理者等からの要請により現場条件に著しい変更が生じた場合を除き原則として設計変更の対象としない。					
	工種	配置場所	配置員数	実日数	備考	
	管路工	起終点部	2名	昼		

5. 仮 設 備 関 係	任意仮設 (1)土留工 ・スライドレール式建て込み簡易土留工を想定している。また、土留材は、1セット 30mを現場搬入とし、100%の設置としている。 ・小口止め及び土留の調整箇所は、軽量鋼矢板等を使用すること。 ・横断構造物等は、一時撤去・原形復旧とする。なお、事前協議を実施すると共に詳細図及び数量等の資料を提出すること。				
6. 建設副産物関係	本工事の施工において生じる特定建設資材の処分については、下記の処分を想定して、処分費、運搬費を計上している。（受注者の都合による処分先の変更は原則として設計変更しない。） ○建設発生土				
	搬出先の名称	処分費	運搬距離	処理施設の所在地	
	明科建材(株)	1,900 円/	2.9km	安曇野市明科中川手 2058	
	○特定建設資材（建設リサイクル法）				
	種 別	処分条件	処分先	数量	運搬距離
	アスファルト (掘削廃材)	再利用	共和リテック(株)	10 t	9.8 km
7. 工事支障物件等	・無し				
8. 排水工（濁水 処 理 含 む）	・本工事により発生する排水は直接放流せず沈殿（沈砂）処理等を行い、各法令を守り自然環境等、悪影響を及ぼすことのないよう処理すること。 ・指示のある場合を除き、付近の公共用水域、排水用水路等に排水すること。 ・沈殿槽（沈砂）は、定期的に清掃し放流先水路等への土砂堆積防止を図り、工事完了後は放流水路の清掃（土砂上げ）を実施すること。 ・排水路下流に、ます池やわさび田があるので現地を十分確認し、管理者と協議、及び承諾を得ること。				
9. 薬液注入関係	・地下水の影響を受けるため、渇水期（1月から3月）に施工できるよう作業工程の調整を行うこと。				

10. 占 用 条 件 関 係	・ 本工事は、車両通行止め を想定している。 ・ 長野県道路占用基準及び安曇野市掘削条件による。 ・ 掘削許可及び道路通行制限等の申請書の内容について、監督員による確認後、関係機関に提出すること。 ・ 掘削区間は出来るだけ短くし、事故防止等の対策を講じること。 ・ 舗装切断幅は、残舗装への影響が懸念されることから設計値とすること。 なお、工事施工に伴う残舗装の破損は、受注者の責任において復旧すること。運搬経路も同様。 ・ 未舗装道路の路面復旧は設計書のとおりとする。
11. 環 境 保 全	・ 掘削工事は、周辺構造物や地表への影響が出ないよう適切に管理を行い、沈下や陥没等が生じた場合は公衆災害防止措置を直ちに講じるとともに、速やかに監督員に報告すること。また、その指示に従い対応にあたること。
12. その他	・ 工事説明会 済 ・ 有（未定）・ 無=戸別説明 規制の伴う掘削開始は、施工計画書の決裁及び説明会終了後7日経過後とする。 ・ 現場を熟知した上で、当該現場に合致した施工計画書の作成に心掛け提出すること。 なお、規制の伴う現場掘削工事等は各種提出書類を監督員が受諾した後とする。

上記定めがない事項については、国土交通省「下水道土木工事共通仕様書（案）」、長野県土木部監修「土木工事共通仕様書」「現場管理の手引き」「現場管理における実務要覧」「下水道工事の手引き」「安曇野市下水道工事特記仕様書」によるものとする。

排出ガス対策型建設機械の使用

- 1 本工事において、下記 7 に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成 3 年 10 月 8 日付建設省経機発第 249 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
- 2 排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成 7 年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。
- 3 施工計画書に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することを明記すること。ただし、これらを使用することができない場合は、下記 4 のとおり監督員と協議するものとする。
- 4 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達できない場合は、次を示す。
 - (1) 工事地域周辺の市町村にあるリース業者に、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械の在庫がない。
 - (2) 工事地域周辺のメーカーの販売店から排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を調達するのに大幅な時間がかかる。この場合は受注者が、上記（1）（2）について、リース業者名又は販売店名を記入した上で、施工協議書を監督員へ提出すること。
- 5 排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行い、監督員に提出するものとする。この写真は、機械の形式または指定ラベルあるいは認定ラベルが明瞭に写っているものであること。
- 6 下記 7 に示す機種について、上記 4 による施工協議で排出ガス未対策型建設機械（従来型）の使用が認められ場合、および上記 5 によって排出ガス対策型建設機械の使用が確認できない場合は、従来型へ設計変更する。

7 排出ガス対策型建設機械を原則使用とする機種

機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・ バックホウ ・ トラクタショベル ・ ブルドーザ ・ 発動発電機（可搬式） ・ 空気圧縮機（可搬式） ・ 油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの； 油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転型オールケーシング掘削機） ・ ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械に限る。